

令和 2 年度 新規高卒者就職問題連絡会議報告書 まとめ

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※ 新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目 4 で回答

(1) 求人の傾向 (変化のあった業種、職種等について)

- ・ 求人数が 1 割～3 割減少したという回答が多い。
- ・ 製造業、卸・小売業、宿泊業、飲食業、サービス業(観光)での求人数が激減している地域が多い。
- ・ 建設業、運輸業、介護事業で求人が増加した。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・ 学校では派遣求人に対して慎重に指導しており、希望する生徒は僅少である。
- ・ 有期雇用を経て、正規雇用へ登用する求人がある。

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲】

- ・ 試験案内の連絡が遅い事業所があった。
- ・ 二次、三次と選考を重ねて実施する企業がある。選考期間の長期化を解消してほしい。その一方で、書類選考のみで採否を決定する事業所もあった。
- ・ 例年よりかなり改善されたものの、選考から結果の連絡までの期間が長い企業がある。就職試験実施後 1 週間以内の採否連絡をお願いしたい。
- ・ 適性検査を重視する企業が増えた。
- ・ 採用試験の倍率が上がったという意見が多い。
- ・ 二次募集の企業が少ないため、内定が取れなかった生徒の指導に苦慮している学校もある。
- ・ 募集人数を充足していなくても、企業が求める人材でないと不合格にする企業も見られた。
- ・ 色覚検査をおこなう場合、求人票に色を使う仕事の内容を詳細記述した上で、実施してほしい。

問題事例

- (1) 面接で、家族構成などを聞く違反質問がなくなる。指導を望む。
- (2) 求人票の選考項目と異なる選考を行う企業があり、受験を辞退した事例もあった。指導を望む。
- (3) 10 月 16 日以前に試験を実施しようとする事業所があった。中には、夏休みに適性検査を実施する企業があった。
- (4) 選考後、面接時に話した家族状況について、学校に問い合わせる事例があった。
- (5) 他の職種ならば、採用という事例があった。例えば、事務職で応募し、介護職なら採用など。
- (6) 内定取消の可能性を盛り込んだ「保留」という通知を出す企業があった。
- (7) 入社までに自動車免許の取得と通勤用自家用車の所持を内定後の契約書で求める企業があった。誕生日と経済的事情で、困難な状況を伝えても、認めてもらえず、内定辞退することになった事例があった。また、準中型自動車免許を入社日まで取得するよう求めてくる事業所もあった。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・ 水害による臨時休校、求人票の遅延や郵便局からの求人連絡の郵便物流出、進路ガイダンスの延期・中止する学校、生徒の間には不安が広がった。

(5) 学科・課程・地域での特徴 (9 月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・ 求人数は減少しているが、専門学科の多くは概ね好調。
- ・ 事務職の求人が減少し、苦慮する商業系学科が増えた。
- ・ 9 月卒業生の就職指導の難しさを感じる。
- ・ 県外就職を希望する生徒の割合が例年に比べて多い地域があった。
- ・ 製造・建設・建築業を中心に学科を工業系に特定しない(学科不問)企業が増えてきた。
- ・ 農業科の就職先の農業法人の求人が減少した地域もあった。

(6) 就職を希望する生徒について (進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・ 経済的な理由で、進学から就職に進路変更する生徒は増加した。その一方で、給付型奨学金を利用して、進学をする生徒もいた。
- ・ 求人減少にともない、今後状況が改善することを期待して、進学に変更する生徒もいる。
- ・ 生徒、保護者ともに、自宅から通勤でき、転勤のない事業所を希望する傾向が強い。
- ・ 保護者の関与が強くなっており、保護者の意向で進路を決定する生徒が多い。
- ・ 1 社目で内定に至らず、すぐに進学に変更することもあり、就職に固執しない生徒もいる。
- ・ 土日休み、残業、交代勤務など就業面で、事業所を選択する生徒が増加している。

(7) 求人取消の状況

- ・ 昨年に比べ、求人取消が多い。職場見学の依頼時、職場見学後、また、応募直前、応募後に取消された例もあった。
- ・ 求人を取り消す事業所は、ハローワークに連絡し、高卒求人情報 WEB サービスから削除してほしい。求人票を送付した学校にも連絡を入れてほしい。応募した後に、求人が取消されていたことを知る事例があった。
- ・ 求人取消までは至らないが、採用人数減の変更をする事業所があった。

- ・内定取消があった。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・上級学校との競合は少ない。
- ・競合した企業では、大卒ではなく、専門学校卒との競合が多かったことが今年度の特徴である。
- ・高卒採用を上級学校採用と分けている企業が多いが、上級学校の内定状況によって、高卒の求人数を決めている企業がある。高卒求人分けて募集してほしい。
- ・公務員で専門学校と競合している。

(9) その他

- ・初めて高卒を求人する事業所が、高卒求人のルールを理解していないことがある。一人一社制のルールなど指導を徹底してほしい。
- ・複数応募解禁月以降のルールについて、企業への周知を徹底してほしい。内定辞退などについて理解していない事業所がある。
- ・公務員希望者は、あいかわらず多い。
- ・求人票と実際の労働条件が違う企業や、ホームページと求人票の求人数が異なる企業があった。
- ・事業所と学校は、受付開始日を遵守してほしい。受付開始日前に事業所に書類が届く事例があった。
- ・公務員は上級学校からの受験が多く、苦戦した。
- ・公務員で大卒程度と同じ日程(5月)で実施した自治体があった。
- ・応募前企業見学や採用試験の案内等がメールで通知されることが増えた。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)(Webを利用した職場見学の状況を含めて)

- ・ほとんどの事業所で、遵守されていたが、見学時に生徒に内定を伝える事業所があった。
- ・出願を前提とした生徒しか受付ない事業所がある。
- ・感染防止対策を徹底した上で見学会を開催する事業所も多かった。一方で、応募前職場見学の中止、また、Webによって実施する事業所が増加した。校内のWEB環境が整っておらず、対応に苦慮した学校が多い。また、生徒は現場を直接見学せずに、職場の雰囲気や働いている様子も見学せずに決めることへの不安がある。次年度は、直接見学できるようにしてほしい。
- ・Web見学に対応できる事業所と対応できない事業所に分かれた。
- ・COVID-19の影響で、見学人数を制限する事業所があり、見学を断られる事例があった。
- ・COVID-19の影響で、応募前見学が延期になり、応募書類提出後に実施した事業所があった。
- ・夏季休業が短縮したため、日程調整や受け入れ体制を整えるのに事業所は苦労していた。
- ・COVID-19の影響で、見学を中止したため、生徒への会社説明に来校してくれる事業所もあった。
- ・1ヶ月後倒しになったため、見学実施期間が長くなった。
- ・「全日制の学校からの生徒で充足している」と定時制の見学希望を断る事業所があった。
- ・2社目の事業所に職場見学を依頼した際「1社目ではないので、やる気がないと解釈される可能性がある」と言われた事例があった。
- ・見学と称して、2日間開店から閉店まで店内の手伝いや物品販売を手伝わされた事例があった。

(2) 応募書類(健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について)

- ・3年次の健康診断が間に合わない場合、調査書記載は「直近のもの」の旨、2年生のものでよいという見解に従い、備考欄に「今年度は未実施」と書き加え、昨年度の記録を記載した学校が多い。
- ・10月16日前に「作文、自己分析シート、事前確認シート等を郵送してほしい」という事業所や、「身長、体重、視力、聴力等を入力、送信してほしい」と事業所があった。
- ・LGBTの生徒の調査書における性別の扱いに困った。
- ・応募時に企業独自のエントリーシート(大学生と共通)の提出を求められた事例があった。

(3) その他

- ・一人一社制を堅持してほしい。
- ・授業のある平日に、内定式、健康診断、懇談会、研修を実施したいという企業が今年も非常に多い。入社前の研修は卒業式以降という慣行を指導してほしい。
- ・内定者への研修課題は原則、卒業式以降になっているので、課題を課す場合は十分配慮してほしい。
- ・内定後の連絡は、学校を通しておこなうよう事業所を指導してほしい。
- ・内定通知と一緒に保護者氏名や保証人などを記載する書式を送り、記入を求めた事業所があった。
- ・内定者に企業専用サイトへの登録や生徒個人のアドレスを要求してくる事業所があった。
- ・不採用の際、応募書類を返却しない事業所がある。個人情報なので、返却してほしい。
- ・採否の結果は、学校と本人に郵送で知らせるよう指導してほしい。

3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援(就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習)の活用状況、効果、課題及び要望等について(新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む)

(1) 職業安定機関によるもの

- ・多くのイベントが中止になり活用できなかった学校が多い。生徒の企業選択や勤労意欲の喚起などに効果のあるイベントであり、今後、定着などに影響しないか心配される。感染防止対策を講じた上で、次年度は実施してほしい。
- ・DVDによるものや、Webで開催されたものもあったが、不評であった。対面で実施してほしい。
- ・感染防止対策を講じた上で実施した地域では、好評だった。

- ・管轄するハローワークによって企業への指導に温度差がある。
- ・厚生労働省が発行する就職直前ガイダンス(厚生労働省委託事業)のテキストに記されている高校生の頭髪や服装などのイラストが、学校の指導、高校生の実態と乖離しており、改善してほしい。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・利用していない学校が多い。
- ・自治体主催の合同企業説明会が中止になる中で、民間職業紹介事業者主催の合同求人説明会が役に立ったという意見もある。
- ・Webでの企業相談会は、遠隔地の高校にとって効果があったという意見もある。
- ・適切な感染予防対策が取られておらず、不安だったという意見もあった。
- ・学校を通さずに応募前職場見学の参加を希望した生徒がおり、混乱した。
- ・民間職業紹介事業者主催の合同企業説明会で、複数の企業と面談した生徒に、個人情報の提供を前提に高価な商品(スーツ)と就活必勝本をプレゼントする特典は、過大な景品提供による誘引に抵触するのではないかと疑問がある。
- ・合同説明会への参加申込が生徒のスマホからLINEで登録することになっていた。不適切に感じ、別の申込方法への変更を求めたが、返答はなかった。

4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について

(1) 令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など

- ・内定辞退、在宅研修、内定取消、採用延期、勤務地変更、別会社への転籍、短時間正社員への変更、自宅待機(給与支給・減給・無給)、業績悪化に伴う「会社都合による退職」、給料未払いでの解雇、廃業による失業、「自己都合による退職」を迫られるケースなどがおこっている。
- ・4月5月に出勤できず放置され、本人は辞めざるを得ない状況となった事例があった。
- ・経営悪化に伴い給料が6割下げる承諾書を書かされたという事例があった。

(2) 学校が臨時休校となった就職準備への影響(指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など)

- ・急な臨時休業だったため、大変混乱した。
- ・臨時休校に関わる実態調査も多く、苦勞したという意見もある。
- ・外出自粛地域の学校で、企業訪問が出来なかったため、求人開拓・定着指導・情報交換・信頼構築が不十分にだった。電話やFAXで、情報を集めた学校もある。
- ・採用担当者も来校が制限されたため、十分に情報を得ることができなかった。
- ・夏休みが短縮されたことで、進路決定に向けての指導(事業所見学、個別面談、三者面談、面接指導、履歴書等の指導)に十分な時間が確保できなかった。
- ・生徒を登校させられなかったため、面談時間の確保が難しかった。そのため、進路希望の掌握に時間がかかった。
- ・インターンシップ、進路ガイダンスをはじめ一連の進路行事が中止になったり延期になったりした学校が多い。応募前職場見学の事前・事後の指導もできなかった。全学年通して、進路意識の醸成ができていない。
- ・保護者が開けず、紙面で対応した学校が多い。情報提供、年間計画などの伝達が不十分になった。
- ・Webツールを活用して、生徒指導を行った学校も多い。日本版O-NETおよび求人票の見方の動画を作成し、youtubeにアップして指導を行った事例もある。
- ・求人学校を訪問する来客が減少した。

(3) 求人の傾向(求人数などに変化のあった業種、職種等について)

- ・例年あった求人が激減したが、COVID-19の影響を受けにくい業種と影響を受けて求人が増加した求人で補うことができた地域がある。例えば、スーパーマーケットの求人は二次募集でも多数ある。
- ・観光業に関わる製造や販売業、ホテル関係の求人が減少している。
- ・企業の経営状況の影響を受け、採用見送りする事業所がある。
- ・サービス業(特にホテル観光業・飲食業)、製造業(自動車・航空関係・製造(部品調達を海外に依存している企業)、鉄道、理美容業が減少した。特に、空港勤務の求人は壊滅的であった。
- ・盲学校高等部専攻科において、訪問マッサージなどは減少傾向である。

(4) 他の地域との自粛など状況が異なることからの影響

- ・COVID-19陽性者数の多い地域の事業所の対面面接を拒否する保護者がいた。
- ・感染拡大地域を敬遠して、就職先を変更した生徒がいた。
- ・応募前職場見学の中止や時期の変更、オンラインへの変更、DVDの視聴などがあった。直接見学することに比べ、企業研究が十分にできなかった。
- ・県外からの企業による求人・学校訪問ともに減少し、訪問をやむなく断る場合もあった。
- ・県外企業の見学で、保護者の自家用車で出向いた生徒もいた。
- ・試験実施場所が変更になった。

(5) 採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など

- ・急な変更だったので、混乱した。できる限り早めに決定、連絡してほしい。
- ・COVID-19の陽性者数の多い地域と少ない地域で、対応の捉え方が異なり、賛否に違いがある。
- ・全国一律の対応だったので、複雑な対応を防げた。
- ・後ろ倒しのデメリットは、進学者への入試対応と重なり多忙になったこと、夏季休業中におこなっていた履歴書指導や面接指導などの指導を授業中に指導するので慌ただしくなったこと、考査などと

重なり苦慮したこと、不採用の生徒が職業訓練校・専門学校・大学等への変更が難しくなったこと、応募前職場見学・応募先決定から間延びしてしまったため生徒の気が緩んでしまったこと、未内定の生徒の活動時期が遅くなり余裕がないことが挙げられる。メリットは、企業分析、面談、進路決定、履歴書作成、面接指導など余裕を持って指導することができた、台風到来への心配が薄れたことがあげられる。

- ・リモート面接に不慣れな生徒が、十分に自分自身をアピールできなかった。
- ・夏休みの短縮、一ヶ月の後ろ倒しにより、授業日の応募前職場見学が多くなり、日程調整に苦慮した学校もあった。
- ・公務員試験との併願が、例年と時期が逆転したため、対応を変えることになった。
- ・専門学生の就職活動の時期と重なり、専門学生で充足すれば募集を打ち切る事業所もあり、この後ろ倒しは、就職希望者には痛手であったという意見もある。
- ・自動車学校入校の遅れ。入社までに自動車免許取得を求められる場合、時間に余裕がない。

(6) 就職試験の状況 (Webを利用した面接試験など)

- ・フェイスシールドやマウスガードの配布、アルコール消毒、密集を避けるため時間をずらした集合、分散形式での実施など、COVID-19の予防対策をした上で試験が行われた。
- ・Webでの適性検査・面接試験が増加した。実施方法について説明不足で、混乱した事例があった。
- ・選考日を11月以降と、遅い時期に設定する事業所があった。また、他の受験生がCOVID-19の濃厚接触者となったことから、急遽2週間、試験日をずらすことがあった。
- ・試験日や会場を分散して選考をしたため、11月まで選考結果が出なかった事業所があった。
- ・健康診断を実施していない学校があるためか、採用試験時に健康診断を実施する企業が増加した。
- ・新型コロナに感染者だけでなく、濃厚接触者や37.5℃以上の発熱など感染が疑われる症状のある生徒は、別日程で実施する事業所が多数だが、「会場に入る前に検温して発熱が確認されたら受験させない。再試験も行わない」という事業所もあった。
- ・2週間前からの検温や接客を伴うアルバイトの禁止の指示する事業所があった。
- ・Webを利用した面接試験は実施する環境等から公平性が保たれるか心配である。
- ・応募後、事前の相談なしにWebによる適性検査や面接試験の実施を連絡してきた事業所があった。
- ・会社でなく、ホテルで行う企業があった。
- ・学校の施設面でWeb対応が難しいと伝えると、採用試験を断るような口ぶりの事業所があった。
- ・事業所から面接官が学校に派遣され全て仕切ってくれた事業所や、採用担当者が来校して学校で試験を実施する事業所があった。
- ・事前に書いた作文を提出する事業所があった。

(7) その他

- ・来年度は、日程に戻してほしいという意見と、今年と同じ日程で行ってほしいという意見、2週間程度遅くしてほしいという意見があった。
- ・インターンシップの中止など、COVID-19の影響で、1、2年生に対する指導が疎かになった。今後、取り戻せるよう次年度に向けて、協力して対策を考えてほしい。
- ・生徒のメンタルケアが例年になく増えた。
- ・離島地域では航空便の減便と「GoToトラベル」が相まって、飛行機確保が困難であった。

5 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター)等)の就職支援

COVID-19の影響で、例年に比べ、支援内容に制限があり、支援を得られなかった学校もあるが、生徒や保護者、教員へ情報提供や、生徒の職業意識啓発や選択決定を促しているほか、面接指導や履歴書の書き方指導、新規求人開拓、問題が生じたときの支援、未就職卒業者のハローワークとの架け橋、課題を抱える生徒への支援など、学校現場ではたいへん役立っている。企業と学校とハローワークとのパイプ役を担っている。

要望・課題

(1) 継続してほしい。ナビゲーターの減員で学校への支援が不足するようになった。減員しないでほしい。

- ・ナビゲーターが入校できないほど厳しいCOVID-19の感染予防をおこなう地域があった。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)

COVID-19の影響で、実施できなかった学校も多いが、感染予防を講じて実施した学校から、高い評価を得ている。地元企業理解、職業意識の形成、働くことへの意欲の喚起に繋がったという意見が多く、生徒や保護者への講演をはじめ、就職ガイダンスについては特に好評だった。次年度も、対面での実施を望む。

(3) その他・要望・意見

- ・インターンシップが中止になった学校が多く、それにかわるイベントを実施してほしい。
- ・土曜日や日曜日に実施できるようにしてほしいという意見もある。
- ・COVID-19の影響で企業との情報交換会が開催できなかった。感染予防を講じて実施してほしい。
- ・発達障がいや軽度の障がい者雇用に関する情報が少ない。

6 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・地方において新卒Uターン就職を想定して、進学する生徒に地元の事業所を知る機会を設けるよう促してほしい。
- ・障害者法定雇用率が上がったが、正社員の障がい者求人は増加していない。障がい者がもっと社会に参画できるようにさらなる施策をお願いしたい。
- ・新年度の実施に関する情報提供をできるだけ早くほしい。
- ・早期離職率の高い企業への労働環境の指導をしてほしい。

7 ユースエール認定制度について（認定制度の認知度、地域での浸透具合）

認知度が低く、活用されていない

- ・周知に努めてほしい。
- ・認定企業は少なく、増えることを期待している。
- ・生徒の認知も低いので、選択基準になっていない。
- ・認定企業が、もっとはっきりわかるようにした方がよいという意見もある。

8 「高卒求人情報WEBサービス」について

（1）その活用例と意見・要望・改善してほしい点（パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて）
要望・課題

- (1) 迅速に更新してほしい。充足求人、追加求人がわかるように工夫してほしい。特に、一次募集充足後は速やかに対応してほしい。
- (2) IDやパスワードの生徒への公表について、本会としては職安法での職業紹介の権限を踏まえ、ハローワークと学校のみで利用できればよいと考えている。IDやパスワードの管理上、伝えていない学校が多い。高卒求人の情報が外部に伝わることによって、不利益を被る可能性も憂慮される。
- (3) 指定校求人が非公開になっていることを確認してほしい。

- ・印刷したものが非常に見やすくなって良かった。
- ・各職安の管轄エリアがわからないため検索がしづらく、管轄のエリアマップを掲載してほしいという意見もある。
- ・企業名から検索の仕方がわからないという学校が多い。詳細検索などの使用方法がわかりづらい。使いやすいよう改善するかマニュアルを作成して配布してほしい。
- ・求人番号の前にある「通し番号」は新着になるごとに変えないでほしいという意見もある。

（2）新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など

- ・求人データをCSVやExcel等表計算用などのデータでダウンロードできるようにしてほしい。
- ・「手取り額」の記載を望む意見が多い。手取額を補足の欄に記載しているハローワークもある。
- ・「職種」を復活して欲しいという意見も多い。
- ・3枚が2枚になったことは、好意的に受け止めている学校は多い。
- ・求人票の変更により、有期雇用・派遣求人等の明記がわかりやすくなった。
- ・募集職種の過去の募集者数、応募者数、採用者数、離職者数、寮の有無が分るようにしてほしい。
- ・「戻る」ボタンや「and or」の条件を付けて検索できるようにしてほしい。
- ・応募書類の送付先を住所、担当者の役付及び氏名はフルネームで記載してほしい。
- ・障がい枠の求人も掲載し、「障がい者求人」を検索できるようにしてほしいという意見がある。
- ・絞り込み一覧を印刷できるようにしてほしい。
- ・賞与について記載されていない求人も多く、記載するよう指導してほしい。
- ・求人票内容に訂正・追加があった場合、訂正・追加の前後が分かるようにしてほしい。
- ・補足事項の欄が狭くなったことで情報が不十分だという意見もある。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・キャリアパスポートの取り組みは行われているが、十分に活用されていない。
- ・キャリアパスポートとe-ポートフォリオを同じものと勘違いしている教員が多い。
- ・「学校と地域でつくる学びの未来」は認知度が低く、活用されていない。
- ・他校での実施例を知りたい。

10 ハローワークとの連携について（好事例、期待、意見、要望）※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

連携はとれている

COVID-19の影響で、情報交換の機会が減少した中で、深刻な打撃を受けている社会の状況が把握できず、情報提供を求める意見もある。しかし、多くの学校から、連携は取れており、対応に満足、感謝しているとの意見が多い。

要望

- (1) 不適切な採用試験などに対し、厳しく企業を指導してほしい。（不適切な質問、迅速な結果の報告、早期選考、内定後の研修、求人票に記載されていない選考の実施など）
- (2) 企業側に高卒求人の「就職に関する申し合わせ事項」を遵守するよう指導をお願いしたい。（内定式・研修会や懇談会、就労を求める企業、就職慣行）
- (3) 試験日・採否決定、期日の遅い企業をなくしてほしい。
- (7) メール等の連絡手段を確保してほしいという地域がある。
- (4) 職安担当者、ナビゲーターによる学校訪問を今後も続けてほしい。

- ・対面での情報交換はできなかったため、Webでも機会をもうけてほしかった。
- ・ジョブカフェで公開している企業案内はためになったという意見もある。

- ・管轄外のハローワークとのやり取りが非常に大変であった。
- ・障がい者雇用に関する知識は知っておくとよいので、必要な知識として研修などの周知を望む。
- ・電話がつながりにくいので回線を増やしてほしいという意見もある。
- ・年度末、担当者が交代する際、業務の引き継ぎなどをしっかりおこなってほしいという意見もある。
- ・発達障がいやてんかん、持病のある生徒の就職に対する支援を強化してほしいという意見もある。

11 関係機関に対する意見・要望について

- ・各種調査の書式等の統一化、共有化、簡素化をお願いしたい。
- ・「学校基本調査」は日本標準職業分類に基づいており、厚生労働省の調査等は厚生労働省分類に基づいているので、統一してほしい。
- ・応募前見学の際の事故などに係る保険については、早期創設をお願いしたい。
- ・新聞・テレビ等の「一人一社制」に関する報道がワーキンググループの報告と異なり、誤ったものになっていることが散見される。それらの報道に対して厳格な態度をとってほしい。
- ・「発達障がい」など課題のある生徒への進路指導に対する理解と支援を望む。
- ・外国籍の生徒が増えてきており、在留資格の確認などの就職指導の留意点や事業所の採用の留意点などマニュアルを作成してほしい。

◆厚生労働省・職業安定機関

- ・障がい者枠の求人情報を特別支援学校以外の生徒は12月まで閲覧できないので、インクルーシブ教育が進む中で、特別支援学校以外でも情報を求めている。
- ・来年度の求人が心配である。失業者が多く、新卒求人の確保をお願いしたい。

◆文部科学省・教育委員会

- ・進路指導に対する人的、時間的な配慮をしてほしい。
- ・Webによる職場見学や試験が行われるようになり、十分対応できない学校も多い。機材・通信環境および場所の確保など環境整備のための予算を確保してほしい。職員の個人所有の機材で対応した学校もあった。
- ・採用試験や入学試験を学校を会場として、Webで実施する場合、IT技術に精通した職員が待機せざるを得ない。休日の場合休日出勤となり、平日の場合は授業と並行しながら対処することになる。一部の職員に負担がかかっている学校もあり、是非対処してほしい。
- ・就職や進学に関するWebによる試験を学校で実施するよう大学等が求めてくるが、試験実施の補助的な仕事が教師の本務なのか不明確である。責任と負担が増えており、不満が多い。対策を検討してほしい。
- ・授業で通信回線を利用していると、つながりにくくなることがある。多数で同時利用しても、スムーズにつながるよう改善してほしい。
- ・学校の端末の制限で、オンラインツールが利用できない学校がある。制限の緩和を検討してほしい。
- ・キャリア教育に関する研修の機会を充実してほしい。

令和 2 年度 新規高卒者就職問題連絡会議報告書【各ブロック別のまとめ】

(北海道ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※ 新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・接客、販売、サービス業、観光関連、事務職等の求人票が激減した。
- ・全体として事業所毎の採用人数が減少した。
- ・建設業、物流関連業、介護職は昨年以上の求人あり。
- ・昨年度の7割程度の求人数であった。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・変化なし。

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】

- ・Webでの面接、適性検査を実施した。
- ・昨年度以上に、採用枠が充足していない状況でも、しっかり見極めている企業が多いように感じた。
- ・他校受験生のコロナ感染の可能性(学級閉鎖)により、試験日程の変更(2週間程度)があった。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・特に影響なし。

(5) 学科・課程・地域での特徴(9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・昨年度と変化なし。(9月卒業生の就職指導の難しさは感じる)

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・希望職種の減少により、経済状況の回復を待つために進学へ変更した。

(7) 求人取消の状況

- ・当初の募集人数より募集数を減少させる連絡が複数あった。
- ・申込後、求人停止により断られた企業あり。

- (8) 上級学校（四大・短大・専門学校等）との競合状況
- ・上級学校との競合の事例はほとんどなかった。
 - ・公務員で影響が感じられるところあり。
 - ・専門学校の就職活動が遅れたことにより、競合する企業があった。
- (9) その他
- ・求人票の試験内容と実際の実施内容に違いがあった。
- 2 就職慣行（一人一社制）の遵守について
- (1) 応募前職場見学（早期選考がないかなど）（Webを利用した職場見学の状況を含めて）
- ・食品関係の業種で、例年出来ていた職場見学が出来ないケースがあった。
 - ・概ね受け入れていただき、早期選考等の問題事例も見られなかった。
 - ・Webによる職場見学は、業種や新型コロナウイルスの感染拡大の状況によって対応されている企業もあった。
 - ・企業によっては「見学＝受験する」と誤認している。
 - ・Webによる見学はあるが、施設整備が十分でないため、校内での対応に苦慮した。
- (2) 応募書類（健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について）
- ・健康診断は延期され、心配されたが応募前に間に合った。
- (3) その他
- ・特になし。
- 3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援（就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習）の活用状況、効果、課題及び要望等について（新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む）
- (1) 職業安定機関によるもの
- ・今年度はコロナの影響で実施されなかったが、合同企業説明会の実施の意味合いは大きい。
 - ・Web開催は不評であった。
 - ・沢山の人が集まるため、積極的に勧めていない。
 - ・今年度、Web開催で、模擬面接も中止した形で夏休み前半に実施した。
 - ・次年度は対面もしくはリモートでの模擬面接も実施してほしい。
 - ・健康や安全が最優先だが、やはり対面実施してほしい。
- (2) 民間職業紹介事業者によるもの
- ・コロナ禍にもかかわらず、対策を講じて「合同求人説明会」を実施していただき、生徒にとって大変有意義な時間となった。
 - ・振興局主催、キャリアバンク運営で11月に開催された「じもと×しごと発見フェア」のコロナ感染対策は著しくひどいものだった。全体説明会では、50名程の生徒に対して、間隔をあけずにびっしりと過密な状態で着席させていた。また、ブースに分かれた説明会では、事業所担当者がプラスチックのしきり板の上から大声で説明し、学校現場との認識の違いに衝撃を受けた。
- 4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について
- (1) 令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など
- ・内定取消、入社延期ともに数件あり。
 - ・地元採用から全国採用へと変更した企業があり、希望生徒は辞退した。
- (2) 学校が臨時休業となった就職準備への影響（指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など）
- ・企業訪問、企業来校の制限、インターンシップの中止。
 - ・例年通りの準備を進めていたが、解禁が一ヶ月遅れ、間延びした感じだった。
 - ・面接指導、履歴書指導、受験前企業見学などが適切な時期に実施できなかった。
 - ・企業への挨拶回りが中々できず、主に電話での情報収集を図った。
 - ・求人開拓は全くできなかった。
 - ・大幅な予定変更とそれに伴うアンケート調査などの増加により、教員の業務圧迫となった。
 - ・日程変更により進学指導と平行しての就職指導で業務過多となった。
 - ・例年より採用試験が1か月遅れたことによる大きな影響はなかった。
 - ・採用試験までの時間が取れた分だけ、生徒・担任ともに安心してしまい、結果的に有効活用できなかった。
- (3) 求人の傾向（求人数などに変化のあった業種、職種等について）
- ・接客、販売、観光、サービス、事務職等の求人減、特に空港勤務の求人は壊滅的であった。
 - ・建設業、介護関係、物流の求人は増加した。
 - ・今年度よりも来年度の求人が心配である。
- (4) 他の地域との自粛など状況が異なることからの影響
- ・道外からの求人が極端に減った。
- (5) 採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など
- ・教員側としては、専門学校の受験解禁時期とも重なり、9月末から10月上旬は業務が集中し、特に書類作成や面接指導等で学級担任が苦勞していた。
 - ・就職の採用試験を遅らせる必要はなかった。

- ・求人公開から試験解禁までの期間が長くなったことで、応募準備に時間をかけることができたが、その分生徒の取り組み状況がやや緩慢になった。
- ・高卒公務員の採用試験が例年通り(9月頭から)実施されたこととのギャップと整合性。
- ・就職希望先を決めかねていた生徒にとっては、十分な時間となった。

(6) 就職試験の状況(We bを利用した面接試験など)

- ・We bによる企業説明会、就職選考における適性検査の実施が数社あり。
- ・採用担当者が来校して試験実施。
- ・今後の事を考えると、Wi-Fiや通信速度などの環境整備が必要である。
- ・求人への応募後に、事業所より就業地の変更、試験内容の変更など、求人票に書いていないことを要望してきた。

(7) その他

- ・すべての場面において初めてのことで、生徒も教員も戸惑っている。
- ・We bでの面接の実施は既存の学校の機材では限界である。

5 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター)等)の就職支援

- ・密をさけ、従前同様に近い企業説明会を実施していただきたい。
- ・今のところ利用していないが、今後利用する可能性がある。
- ・就職希望者の指導支援をいただいた。また、個別案件についても、丁寧に対応いただいている。
- ・求人の現状や企業側の動向など細かな情報提供をしていただいた。
- ・本校は最寄りの職業安定所から約90キロ離れているため、オンライン相談を可能にしてほしい。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)

- ・ナビゲーターを講師として、1、2年生の就職希望者対象にガイダンスを実施した。
- ・働くことへの意識形成に寄与されている。
- ・ほとんど中止になっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響も考えなければならないが、対面で話が聞けるような工夫を期待する。
- ・夏休み直前にハローワークが外部依頼して実施する就職ガイダンスを実施した。

(3) その他・要望・意見

- ・We b GO!GO!の利用をしやすくしてほしい。
- ・中止の代替イベントへの対策してほしい。

6 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・コロナ禍収束に向け、十分な情報提供をし、早期に健全な経済活動を取り戻せるよう取り組みをしてほしい。
- ・新規高卒者が自立できるように、最低賃金のアップをしてほしい。
- ・新年度の実施に関する情報提供をできるだけ早くほしい。
- ・求人票の曖昧な記載に対する指導をしてほしい。
- ・早期離職率の高い企業への労働環境の指導をしてほしい。

7 ユースエール認定制度について(認定制度の認知度、地域での浸透具合)

- ・学校でも地域でも認知度は低い。
- ・ハローワークから地域向け情報発信はされている。

8 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点(パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて)

- ・企業は採用(内定、充足)した場合、速やかに申し出て、We b一覧から削除してほしい。
- ・特定の業種の企業の選択がしやすくしてほしい。
- ・新しいものが後ろにアップするのをやめてほしい。
- ・パスワードについては、柔軟に対応してほしい。

(2) 新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など

- ・希望職種を必ずチェックしないと検索できないのが使いづらさを感じる。
- ・新求人票で「手取額」が分からなくなり、生徒が混乱していた。
- ・指定求人もWe bで閲覧できるようにしてほしい。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・現在、学校独自で地元企業と連携をとっている。
- ・次年度以降、キャリアパスポートを有効活用できるように検討中。
- ・小、中、高の連携会議が実施できなかった。

10 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・所管のハローワークは実施する進路行事に理解を示し、非常に協力的である。今後も互いに連携を深めていきたい。
- ・コロナ禍で厳しいかもしれないが、なにか代わりになるものを開催してほしい。

- ・発達障がい疑われる生徒に対する就職支援をしてほしい。
- ・親切に対応していただいているが、電話がつながりにくいので回線を増やしてほしい。
- ・年度末に担当者が代わり、非常に混乱をきたした。業務の引き継ぎをしっかりとしてほしい。

11 関係機関（①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等）に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・各関係機関の同じような報告書類を一元化してほしい。データの入力も負担にならないものへ変更してほしい。（①②④⑤）
- ・障がい枠の求人をWeb上で公開してほしい（①④）
- ・給与欄に手取りの金額が再明記してほしい。（④）
- ・総務省と厚労省の職業分類を統一してほしい。（①）
- ・求人票についてPDFデータでの提供、アクセスをできるようにしてほしい。（④）
- ・公務員試験の2次面接で「今返事をすれば内定を出す」「内定を出すから他の1次合格先は受けないように」などの指示が特に町村役場で横行している。生徒の不利益にならないように早急に対応してほしい。（①④）
- ・簡単でわかりやすい、求人票のリーフレットを作成してほしい。（①④）

（東北ブロック）

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

（1）求人の傾向（変化のあった業種、職種等について）

- ・昨年度と比較して学校への郵送・持ち込みの求人票が大幅に減少した。
- ・観光業、製造業、サービス業、販売業、飲食業、宿泊業での求人数が激減した。
- ・介護、建築業の求人数は増加した。

（2）有期雇用・派遣求人

- ・生徒・保護者からの希望があれば受験させている。

（3）採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】

- ・10月16日以前に試験を実施しようとした企業があった。
- ・県外企業から試験日を11月上旬にするとの連絡があった。
- ・求人票の記載と違う試験を行った企業があった。（事例：求人票に記載のない書類選考、試験が2回、筆記試験を通過したものだけが面接に進む等）
- ・生徒の個人情報に配慮すべき検査（色覚検査）の通知が事前になかった。
- ・Webによる適性検査の実施方法について説明不足の企業があり、受験が混乱した。

（4）災害（台風・地震・集中豪雨・噴火等）の影響

- ・求人票を持参する企業が減った。
- ・コロナ禍で求人を中止する事業所が相当数あった。

（5）学科・課程・地域での特徴（9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて）

- ・工業系学科に対する求人は良好であり、内定状況も好調であった。
- ・在学中に取得した資格や身につけた技能をいかせる企業への就職を希望する者が多い。
- ・学科の特性に関連しない職種へ応募し、競合した場合の不合格率が上昇した。
- ・地元企業を希望する生徒が多い。
- ・自宅からの通勤を考えている生徒が多い。

（6）就職を希望する生徒について（進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて）

- ・保護者の意向が受験先に強く影響するケースが増えている。
- ・自宅からの通勤を希望する生徒が多い。
- ・公務員希望者が増加し、民間就職希望者が減少した。
- ・関東圏での就職から切替える者がおり、地元志向が高まった。

（7）求人取消の状況

- ・応募書類を作成中に取り消しの連絡があり、生徒が困惑した。
- ・求人票をもらったが、「今年度の募集中止」という連絡があった
- ・大手企業で求人数が求人公開後2か月してから、4割減という変更があった。
- ・地元の中小企業数社で求人取り下げの連絡があった。
- ・応募書類提出後、求人票を取り消した企業があった。
- ・募集停止、求人数削減の連絡が入る企業が増えている。

（8）上級学校（四大・短大・専門学校等）との競合状況

- ・上級学校との競合という事例は特に見られなかった。
- ・大卒求人決定後、高卒求人の有無を決定するという企業があった。

（9）その他

- ・アポイントなしで学校訪問する企業があり対応に苦慮した。

2 就職慣行（一人一社制）の遵守について

（1）応募前職場見学（早期選考がないかなど）（Webを利用した職場見学の状況を含めて）

- ・見学の問い合わせをしたところ、見学可から不可に変更になった企業があった。

- ・応募者多数のため、見学を断る企業があった。
 - ・10月16日前に、面接に先駆けて、Webで適性試験を実施する企業が数社あった。
 - ・県内外を問わず、Webでの職場見学があり対応が大変であった。
 - ・県外企業はWeb見学の準備をしている企業が多いが、県内企業は準備が整っていない。
 - ・職場見学の回数制限を行っていて、連絡した段階ですでに終わっていることがある。
- (2) 応募書類（健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について）**
- ・不採用の際、FAXでの連絡のみで、応募書類を返却しない企業がある。
 - ・不採用の際、本人に直接履歴書と調査書を返送した企業があった。
 - ・書類を送った後に、本社の移転先の連絡がなされた県外企業があった。
 - ・10月16日前に調査書に記載がしてある「身長、体重、視力、聴力等を入力、送信してほしい」と依頼された。
 - ・10月16日前に「作文、自己分析シート、事前確認シート等を郵送してほしい」と依頼文書が送付されてきた。
- (3) その他**
- ・一人一社制を今後も実施していただきたい。
 - ・就職試験解禁日は、高校生は全国一律でお願いしたい。
- 3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援（就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習）の活用状況、効果、課題及び要望等について（新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む）**
- (1) 職業安定機関によるもの**
- ・例年の企業説明会の代替として企業情報PRシート集、企業紹介動画がWebで公開された。
 - ・職業安機関主催の企業説明会は、従来2、3年生が参加できたので、現2年生の来年度の就職活動への影響が懸念される。
 - ・就職説明会や合同企業説明会が中止になり、就職に関する手続き等を聞くことができなかった。
- (2) 民間職業紹介事業者によるもの**
- ・関東企業の参加が多く、地元企業の参加が少ないため、生徒がほとんど参加していない。
 - ・Webでの企業相談会は、遠隔地にある高校にとっては利便性が増し効果的だった。
 - ・Webによる企業説明会の実施が多かったが、学校設備の環境整備が間に合わない事例があった。
- 4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について**
- (1) 令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など**
- ・自宅待機等の措置(有給)をとった企業が数社みられたが、6月から開始した企業があった。
 - ・令和2年度の就職者のうち、飲食店での経営悪化に伴い客が戻るまで給料が6割に下げられ承諾書を書かされたという報告があった。
 - ・内定の取り消しはなかったが、自宅待機や就職先が閉店してしまい困ったという報告があった。
 - ・県外に就職したものの、実際に現場で勤務ができない状態が続いていたが、その間給料が全額もしくは毎月定額支払う企業があった。
- (2) 学校が臨時休業となった就職準備への影響（指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など）**
- ・教員による県内外の職場訪問ができなかった。
 - ・就職活動と進学活動が同時期に実施されることにより職員が多忙となった。
 - ・求人開拓、企業の採用計画情報の収集のため、例年5月末に教員による企業訪問を行っていたが、今年度に関してはすべてFAXによる調査、電話による聞き取りに変更となった。
- (3) 求人の傾向（求人数などに変化のあった業種、職種等について）**
- ・旅館や飲食店の求人数が減少した。
 - ・事務、サービス（特に飲食、宿泊）の職種で求人の減少が顕著であった。
 - ・宿泊関係、サービス関係の求人が減少している。
- (4) 他の地域との自粛など状況が異なることからの影響**
- ・感染拡大地域での見学を自粛したため、企業研究が十分にできなかった。
 - ・関東圏の企業で応募前見学を行えない企業があり、DVD鑑賞のみで対応した。
 - ・関東圏での就職を希望していた生徒は、就職先を県内または東北圏内に変更した。
- (5) 採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など**
- ・就職と進学の時期が重なり、指導が大変だった。
 - ・不採用となった生徒の事後指導に困る。また、10月上旬から中旬にかけて、専門学校の出願時期と重なるで、担任の煩雑さが増した。
 - ・採用試験・内定開始が1ヵ月遅れとなったため、進学のと時期と重なり、準備のための指導時間確保が大変であった。
- (6) 就職試験の状況（Webを利用した面接試験など）**
- ・今年はWebによる面接や適性検査が実施された。
 - ・会社から「適性検査を自宅又は学校のPCを利用して受験してほしい」と依頼された。

- ・適性試験をWebで行った企業があった。
- ・関東本社の企業を受験した生徒が、Web面接・PCによる適性検査を行った。
- ・WebによるSPI検査を実施する会社が複数社あった。
- ・応募前企業見学や就職試験において、オンライン形式をとる企業があった。
- ・Webを利用した適性試験・作文試験・面接試験を実施する企業があり、事前の準備（ICTの点検、実施時間・場所の確保、トラブル対応時の方法、生徒の指導、担当教員の配置等）に時間を要した。

(7) その他

- ・インターンシップの中止により、来年度の高校3年生に与える影響が心配である。
- ・内定後に、LINEやメールを使い会社と内定者間で、内定式等の行事案内や事前研修のテキスト等のやり取りをするという文書が届いた。
- ・応募前企業見学や採用試験の案内等がメールで通知された。
- ・Web試験での受験が1件あったが、事業所から本校に面接官が派遣されてきて全て仕切ってくださいだったので特に大きな問題もなく試験は実施できた。

5 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター))等の就職支援

- ・連携コーディネーターには非常に助けられている。
- ・障がい者手帳を持つ生徒に対する支援をお願いした。
- ・既卒者の就職支援を手厚く行っていただいた。

(2) 生徒、保護者への講義・講話・企業説明等(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)

- ・インターンシップが実施できないことから、代替行事をお願いした。

(3) その他・要望・意見

- ・特になし。

6 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・障がいがある生徒に対する就職支援の取組を充実させてほしい。
- ・軽度発達障害が疑われる生徒の入学が増えているため、就職支援の取組を充実してほしい。

7 ユースエール認定制度について(認定制度の認知度、地域での浸透具合)

- ・生徒には、ユースエールに取り組む企業を推奨しているが、認知度が低い。
- ・ユースエール認定された企業のメリット・デメリットやそれが企業のある企業の将来性について教えてほしい。
- ・認定企業だからと言って希望する生徒は少ないように感じる。

8 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点(パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて)

- ・求人を取り消された場合に、Webサービスから削除してほしい。
- ・求人が終わった企業と求人中の企業がはっきり分かるようにしてほしい。
- ・Excelデータに変換できるようにしてほしい。

(2) 新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など

- ・手取金額の項目がなくなったので非常に指導しづらい。
- ・地域的に寮の有無が企業を選ぶ基準の一つになるので、記載を元に戻してもらいたい。
- ・住居(宿舍)の情報が詳しくなく、補足事項に記載のない場合も見られ、問い合わせなどが必要となった。
- ・Web求人票に、企業を紹介するQRコードを掲載してほしい。スマートフォンが普及している現状、QRコードで簡単に企業情報を検索できるとメリットがあると思われる。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・青森県で作成した「あおりっ子キャリアパスポート」を活用している。年に4回分あるので、HR活動の中に4回分組んで実施している。

10 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・特別支援が必要な生徒が普通高校にも進学するようになったが、高校からの出口指導が大変な状況であるため、企業の特別支援枠での就職受入可能数を、求人票開示とともに公表できないか。
- ・ジョブカフェで公開している企業案内はためになった。

11 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・各省庁への調査報告を一本化してほしい。(①②③④⑤)
- ・進路アドバイザーによる企業訪問には大変お世話になっている。受験企業の情報を教員が調べられない範囲まで詳細に教えていただきとても感謝している。本制度の継続を切に望む。

(⑤)

- ・一人一社制は今後も継続していただきたい。(①②③④⑤⑥)

(関東ブロック)

- 1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※ 新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答
- (1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)
- ・全業種にわたり求人数の減少がみられた。(特にサービス業、観光、鉄道、空港関係)
 - ・販売、事務職の求人減。
 - ・中小規模の事業所の求人減少。
- (2) 有期雇用・派遣求人
- ・有期または派遣の仕事を選択した生徒はいない。
 - ・有期雇用、派遣求人はほとんどない。
 - ・あるが紹介していない。
- (3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】
- ・高倍率の企業が多い。(特に事務職)
 - ・1社目の内定率が全体的には例年よりも厳しい状況ではある。
 - ・適性検査を実施する企業が増加傾向にある。
 - ・適性検査を重視する企業が増えた。
 - ・健康診断を実施していない学校があるためか、採用試験時に健康診断を実施する企業が増加した。
 - ・試験後結果が通知されるまでやや時間が掛かる傾向があった。
 - ・面接時に家族構成などを質問される企業があった。
 - ・求人票と労働条件や試験内容が違う企業があった。
- (4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響
- ・台風などの影響は特に出ていない。
- (5) 学科・課程・地域での特徴(9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)
- ・昨年より求人数は大幅に減少してはいるが首都圏という地域特性、コロナ禍にあっても影響を受けにくい業種などからの求人をいただけている。
 - ・希望職種の求人が減少し、機械科・電子機械科の生徒が職種変更等を余儀なくされた。
 - ・機械科・電子機械科は製造職種の希望が多く、電気科・建築科は建設関係職種の希望が多い。
 - ・電気系の生徒に対して電気工事や通信技術者の求人がやや増加した。(5G、コロナ禍におけるリモートワークの影響のため)
 - ・社会福祉施設や関連企業からの求人が多く、福祉・生活系学科はよい。
 - ・地元志向が強い。
 - ・専攻学科と異なる業種を選択すると、不合格になる傾向があった。
- (6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)
- ・進学を希望する生徒が増加する傾向がみられる。
 - ・希望する職種など就職先がないため、進学に切り替えた生徒がいた。
 - ・家庭内での経済状況により進学から就職に切り替える生徒がいた。
 - ・土日休み、交代勤務なしの職種を希望する生徒が増えた。
- (7) 求人取消の状況
- ・8月中旬よりハローワークから毎日のように「求人取り消しのお知らせ」が届いていた。
 - ・校内選考後に求人取り消しが数件あり、再検討せざるを得ない生徒が出てしまった。
 - ・企業見学を実施したにもかかわらず、募集停止となったケースがあった。
 - ・航空関係やイベント関係の電気工事等の求人が、8月中旬から9月下旬にかけて取り消しされた。
 - ・履歴書と調査書を送付した後で、採用計画を取り消した企業があった。
- (8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況
- ・特になし。
 - ・ここ数年の大きな流れとして、大卒しか採用しなかった企業が高卒に目を向けてきたように感じる。
- (9) その他
- ・入社までに必ず免許取得の上、かつ通勤用の自家用車を用意するというのを内定後の誓約書へ誓約するよう求めてきた企業があり、その生徒の誕生日と経済事情から難しかったので、数か月は公共交通機関と自転車での通勤を認めてほしいとその企業に進路指導部から打診したところ、それは認められないということで内定を取り消された。そこで、本人と保護者の意向を確認し、校長名で内定通知を返送し内定を辞退した。
 - ・今年度は就職試験が1ヶ月遅くなったため、進学指導と就職指導の時期が重なり忙しかった。
 - ・新型コロナウイルスの感染予防対策で、企業の方の訪問を、電話・FAX・メールで対応した。
 - ・求人で学校に来る来客が減少した。
 - ・履歴書について、手書きせずにパソコンで入力するのとどちらが良いか、校内で議論になり、職安に聞いたが各校の判断ということだった。誰も情報を持っていないようなので、メリットデメリットを含めて、情報をいただきたい。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)(Webを利用した職場見学の状況を含めて)

- ・「全日制の学校からの生徒で充足している」と断られた企業があった。【定時制】
- ・Web見学では実感がなく生徒は戸惑った。
- ・美容関係を希望した生徒が2日間開店から閉店まで店内の手伝いをしながら物品販売を手伝わされた。
- ・学校まで来てくれて説明を行ってくれた企業もあった。
- ・夏休みに適性検査を実施(早期選考)する企業があった。
- ・遵守されていた。

(2) 応募書類(健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について)

- ・健康の記録は、調査書に「直近のものである」の旨を記載して問題はなかった。また、実施が出来なかったものに関しては「今年度は未実施」と記載した。
- ・学校再開後、健康診断・身体測定を急遽7月中や夏休み期間中に登校日を設け実施したり、3年生だけ実施する学校もあり、苦慮していた。
- ・特に問題は出ていない。

(3) その他

- ・Webでの見学及び試験の対応(日程や時間の調整)が大変だった。
- ・2社目の事業所に職場見学を依頼した際「1社目ではないので、やる気がないと解釈される可能性がある」と言われた。※すでに、県とハローワークには報告済み。
- ・入社試験は慣行どおりが絶対によい。大学生徒は違い、生徒本人に複数の会社に向かう経験も乏しく、意志や余裕がない。

3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援(就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習)の活用状況、効果、課題及び要望等について(新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む)

(1) 職業安定機関によるもの

- ・活用したいものも中止になって活用できなかった。
- ・合同企業説明会(埼玉労働局主催)が中止になり、例年生徒の緊張感が出てくるこの会に参加できず生徒の意欲が欠けてしまった。また、企業選びに支障は出ている。多数の企業の情報を得られる機会が失われてしまったので、迷っている生徒には企業選択が難しくなってしまう。是非、再開してもらいたい。
- ・就職直前ガイダンス(厚労省主催)のテキストに、高校生の頭髪や服装などのイラストで、あまり就職活動に適切でないものがあった。
- ・説明会や講習ができなかったため、企業やハローワークの方に来校していただき個々に面談していただいた。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・民間業者が主催している説明会に何校かの生徒が参加。「来場者特典について 高校3年生(4年生)の来場者を対象にビジネススーツ1着の引換券と就活必勝本をプレゼントいたします。特設サイトでの事前エントリー後、当日参加、企業ブースを6社以上回った方に、引換えとなります。」との広告で実施している。高校生の説明会で参加生徒の個人情報を得た上で、このような高額な特典を付けて実施するのはどうかと思う。参加した企業はこのことを知らずに後から疑問の声が聞かれた。
- ・外部講師(就労移行支援事業所職員)を招いての授業を行った。
- ・活用していない。

4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について

(1) 令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など

- ・令和3年4月入社の生徒については現時点で内定取消・採用時期延期・労働条件の変更はない。
- ・内定取消、採用延期もあった。
- ・ホテル関係等で解雇となった事例がある。
- ・入社後、自宅待機、在宅研修等になったものがいた。
- ・実習をお願いしていたが、新型コロナウイルスの関係で白紙になった。

(2) 学校が臨時休業となった就職準備への影響(指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など)

- ・進路実現へ向けて、Webツールを活用した。
- ・進路のPTA行事等が中止となり、「進路だより」や「進路の手引き」を郵送して情報発信した。
- ・進路ガイダンス等は密にならないように実施または中止にするなど対応した。
- ・生徒はもとより、保護者への情報提供や説明が不十分であった。生徒が企業選択をする際、保護者が高校生の就職活動について理解不足のためうまくいかない面が見られた。
- ・面接指導や履歴書の指導時間が減少した。

(3) 求人の傾向(求人数などに変化のあった業種、職種等について)

- ・1(1)に記載

(4) 他の地域との自粛など状況が異なることからの影響

- ・影響は感じていない。

- ・地元志向が強いので、特になかった。
- ・都内や県南地域への見学を避ける傾向もみられた。

(5) 採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など

- ・会社見学から就職試験までの期間があき、進学者の指導と時期が重なり煩雑となってしまったことがあった。実際は2週間程度の変更(10月1日以降)で良かったのではないかと。
- ・2学期の始業から10月まで余裕を持って指導することができた。
- ・変更する場合は、進路指導計画の点から、もっと早い時期に決定してほしかった。
- ・採用試験が1ヶ月遅れた分、未内定の生徒が例年より遅くまで決まらないのではないかと懸念している。
- ・全国一斉であったため、大きな影響はなかった。

(6) 就職試験の状況(We bを利用した面接試験など)

- ・全体として、We bを利用して面接を実施した企業は少数であった。We bによる適性検査や作文を実施した企業はWe b面接より若干多かった。例年と同様な形式や内容で試験を実施した企業がほとんどであった。
- ・オンラインによる就職試験を受験する際、通信環境が整った教室を調整するために授業変更や教室移動等を行わなければならなくなってしまった学校があった。

(7) その他

- ・指導計画からも、次年度以降の日程についての情報を早めにいただきたい。
- ・We bでの実施は環境を整える必要がある。(機器・通信環境および部屋についても)
- ・受験時期がずれたことで、生徒が不安に感じている時間が結果的に伸びてしまい、精神面のフォローが例年になく増えた。
- ・求人票に記載された試験と違う試験を実施された企業があった。
- ・職場見学や入社試験を全てWe bで行った企業が数件あった。生徒は職場の雰囲気が分からず不安があると言っていた。ミスマッチが心配である。

5 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター)等)等の就職支援

- ・活用していない、現在のところ利用の予定はないとの学校が多い。ハローワークにより、学校へのアプローチも様々なようである。
- ・有効に機能していた。特に模擬面接指導や求人開拓に貢献していただき、教員負担が軽減できた。
- ・ハローワーク担当者の方は親身にしかも熱心に対応いただき本当に助かった。
- ・障がいのある生徒の就職相談で、就職支援相談員の方に本校に来てもらい、本人、担任、進路指導主事を含めて4者で面談を行った。学校側が知らなかった情報も教えていただき助かった。結果、無事内定をいただくことができた。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)

- ・活用していない、現在のところ利用の予定はないとの学校が多い。
- ・実施を予定しているが、学校の会場の確保が大変である。

(3) その他・要望・意見

- ・いつも様々な情報を連絡していただき助かっている。
- ・新型コロナウイルスの影響で情報交換会が今年度は一カ所しか開催されなかったため、企業との直接対面した上での情報交換をする機会が少なくなった。
- ・障がい者枠の生徒の求職者登録でお世話になった。

6 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・サテライト的な催しがあってもよかったと思う。
- ・キャリア教育研修の充実。
- ・We b説明会等に対応できる設備支援等。
- ・障害者手帳を持つ生徒への対応。

7 ユースエール認定制度について(認定制度の認知度、地域での浸透具合)

- ・「ユースエール認定制度」は生徒、保護者など世間であまり認知されていない。
- ・求人票にマークがついており、紹介の参考になる。
- ・制度について承知はしているが、その制度が就職活動にどれだけ効果があったかは不明。

8 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点(パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて)

- ・企業名から検索の仕方がわからない学校が多い。詳細検索などの使用方法がわかりづらい。使いやすいよう改善するかマニュアルを作成して配布してほしい。
- ・ID、パスワードを生徒、保護者に伝えるのは好ましくないと思う。
- ・パスワード厳しい使用制限でせっかくのデータを活用できない。自由に閲覧できると良い。
- ・印刷したものが非常に見やすくなって良かった。
- ・生徒にID・パスワードを同意書・利用規約を設定して開示したが、活用例は極少数に止まった。

- ・定員を採用し終わった企業の求人票は、早く削除してほしい。
- (2) 新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など**
 - ・求人票に応募書類の送付先が明記されていないので選考場所ではなく応募書類の送付先を明記してほしい。
 - ・求人票の変更により、有期雇用・派遣求人への明記がわかりやすくなった。
 - ・絞り込み一覧を印刷できるようにしてほしい。
 - ・求人一覧を、c s v形式でダウンロードできるようにしてほしい。
 - ・求人票から「手取り金額」や推薦校の表示がなくなった。必要な情報が減り不要な情報が多く記載されている。今一度、何が必要か現場の意見を把握してほしい。
 - ・来年度の求人票からは「職種」という項目名をきちっと記載してもらいたい。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・業者の扱っているものもあるが、生徒の「キャリア教育」の充実には課題が多い。特に段階的指導ができていないことにも起因する。
- ・あまり活用できていない。
- ・「キャリアパスポート」と「ポートフォリオ」の理解が混雑している。違いがわかりづらいようである。
- ・学校独自のものを作成している。
- ・中高連携の観点からも利用すべきと思う。

10 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・情報提供など大変助かっている。連携がとれている。
- ・ハローワーク担当者の方は親身に熱心に相談に応じていただき大変満足している。
- ・今年は著しく、情報交換をしていない。
- ・各主事が集まっての情報交換が出来なかった。Web開催でも機会を作っていただきたい。
- ・担当の方だけでなく、雇用指導官の方との懇談会を開いていただき、本校の現状を知っていただくとともに企業の様子を伺うことができた。
- ・地区の雇用対策協議会との学校訪問はアポイントをとってから来ていただきたい。

11 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・進路状況などの調査についてはぜひ改善をお願いしたい。求人番号と人数を提供しデータの抽出は各機関でもらうことはできないだろうか。(①②④⑤)
- ・4月当初から高校生の就職選考等解禁日に変更なしと進められている中で、唐突に1カ月繰り下げの報道がなされた。見通しをもって計画してほしい。(①④)
- ・学校現場が振りまわされた印象が強い。生徒に不利益が生じないように対応をお願いしたい。(⑤)
- ・今年度、コロナ禍のためWebでの見学は仕方なかったと思うが、これが前例となり今年度以降もWebで実施する企業が増えることに懸念を感じる。職場の雰囲気分からないまま、就職することに生徒も不安があると思う。是非、今回は非常事態の特例としていただきたい。(①②③④⑤⑥)
- ・毎年言っていることだが、学校基本調査の「13 職業別就職者数」の調査のところで「A 管理的職業従事者」と「B 専門的・技術的職業従事者」は高校生にはほとんどないということで他の職業に分類するよう文部科学省は求めているが、厚生労働省と文部科学省ですり合わせて解釈を統一してもらいたい。いつまで2つの統計数字を併存させるのか。(①②)
- ・障がい者のサポート機関を増やしてほしい。(①②⑤)
- ・一人一社制を堅持してほしい。(①②⑤)
- ・進路指導に対する人的、時間的な配慮をしてほしい。(②⑤)
- ・内定後の生徒と企業が連絡を取ることにのガイドラインを定めてほしい。(①②⑤)

(東京ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・多くの業種で減少。特に販売、サービス(ホテル・空港等)、飲食での減少が目立った。
- ・これまで例年求人があった企業が募集なしだった。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・有期または派遣求人を選択する生徒はいない学校が多い。
- ・求人数は減少傾向にある。(事務・アパレル・旅行・販売等)

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】

- ・例年より厳しくなった。
- ・二次試験を課す企業が増えた。
- ・不採用が増加した。(倍率が上がった)

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・特に影響は出ていない。

- (5) **学科・課程・地域での特徴** (9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)
 - ・特になし。
- (6) **就職を希望する生徒について** (進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)
 - ・経済的理由により就職希望者が増加した学校と、就職状況の悪化を見越して進学に切り替える。生徒が増えた学校等、各学校によって状況は異なる。
 - ・学費等の関係で10月16日以降に進学から就職に切り替える生徒がいた。
 - ・1社目で不採用になると専門学校進学へと切り替える生徒が複数名いた。
- (7) **求人取消の状況**
 - ・9月に入り複数企業から取り消しが出された。
 - ・少数ではあるが、求人票が届いた後に求人取り消しの連絡がきた企業がある。
 - ・ホテルや空港関連の会社、事務などから求人取り消しが出された。
- (8) **上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況**
 - ・特になし。
- (9) **その他**
 - ・特になし。
- 2 **就職慣行(一人一社制)の遵守について**
 - (1) **応募前職場見学** (早期選考がないかなど) (Webを利用した職場見学の状況を含めて)
 - ・特になし。
 - (2) **応募書類** (健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について)
 - ・特になし。
 - (3) **その他**
 - ・高卒内定者への研修課題は原則として卒業式以降になっているはずだが、内定後すぐに研修課題の提案があった企業がある。
- 3 **職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援** (就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習)の活用状況、効果、課題及び要望等について (新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む)
 - (1) **職業安定機関によるもの**
 - ・活用している学校が大半だが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止になり、就職指導開始当初の指導に影響があった。
 - (2) **民間職業紹介事業者によるもの**
 - ・活用していない学校がほとんどである。
- 4 **新型コロナウイルス感染症に伴う状況について**
 - (1) **令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など**
 - ・4月5月に出勤できず放置され、本人は辞めざるを得ない状況となった。(飲食業)
 - ・入社が1ヶ月後ろ倒しになった。
 - ・自宅待機期間が10月まで延びた。(旅行業)
 - (2) **学校が臨時休業となった就職準備への影響** (指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など)
 - ・全体指導・個別指導の時間確保に苦慮し、計画全体の見直しを余儀なくされた。面接練習の時間不足、会社見学の事前・事後指導の遅れも否めない。
 - ・例年6月に実施していた来校型の「卒業生を囲む会」が実施できず、アンケート形式で実施したが密な話ができずに終わってしまった。
 - ・教員による6月の企業訪問が電話に代替された。
 - ・例年だと夏季休業中に行っていた指導が授業と並行して行われることになったため、生徒も教員もかなり大変だった。
 - ・就職試験と定期考査とがバッティングする事態が発生した。
 - ・日本版O-NETおよび求人票の見方の動画を作成し、youtubeにアップして指導を行った。
 - (3) **求人の傾向** (求人数などに変化のあった業種、職種等について)
 - ・飲食、ホテル、空港サービス、販売、事務等多くの業種で減少している感じがある。2～3割程度減少の印象。
 - ・スーパーマーケットは二次募集が多数あり。
 - (4) **他の地域との自粛など状況が異なることからの影響**
 - ・特になし。
 - (5) **採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など**
 - ・夏休みが短くなった上、1ヶ月遅れになったことで生徒の気が緩んでしまった。
 - ・進学指導の時期と重なり、指導時間の確保に影響があった。
 - ・実際に就職活動のできる時間が短いところで、生徒にとって余裕がなかった。
 - ・中間考査と重なってしまった。1ヵ月遅れにする必要はなかった。
 - ・生徒への意識づけが難しかった。
 - ・全国一律だったため特に影響はなかった。
 - ・1社目不採用だった生徒が2回目の受験に余裕がない。
 - (6) **就職試験の状況** (Webを利用した面接試験など)

- ・Webを利用して面接等を実施する企業はそれ程多くなかった。
- ・筆記試験の代わりにWeb試験を実施した企業があった。
- ・会社見学がオンライン実施の企業があった。(試験は通常通り)

(7) その他

- ・来年度に向けてWebでの実施に対応できる環境を整えていく必要がある。

5 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター)等)の就職支援

- ・活用している学校が多い。
- ・相談員の方には親身になって相談にのっていただき、大変感謝している。
今後二次募集に参加する生徒への支援をお願いすることになると予想している。

(2) 生徒、保護者への講義・講話・企業説明等(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)

- ・現在は活用していないが、今後活用していきたい。

(3) その他・要望・意見

- ・特になし。

6 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・海洋系の就職先の開拓(マリンスポーツ、潜水等)をお願いしたい。
- ・運輸局からの求人票との一元化をお願いしたい。
- ・家族構成に関する質問が後を絶たないので止めさせてほしい。
- ・次年度以降も採用試験の時期を10月開始にしてほしい。

7 ユースエール認定制度について(認定制度の認知度、地域での浸透具合)

- ・制度についてあまり認知はされていない。

8 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点(パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて)

- ・全体としては改善等の要望はあまり見受けられなかった。
- ・会社名での検索もできるようにしてほしい。
- ・もう少し入力しやすいパスワードにしてほしい。
- ・生徒に分かりやすい検索がよい。
- ・パスワードを生徒や保護者へ伝えることを可能にしてほしい。

(2) 新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など

- ・企業名を入力して求人票を閲覧できる機能の追加をお願いしたい。
- ・天引きされる税額の明記をお願いしたい。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・活用しているという学校はあまり多くなかったが、取り組んでいる学校に関しては実施計画を作成し、計画的に活用している。
- ・学年に内容を伝え、年度末を目安に生徒へ記録させる予定。

10 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・良好であり、大変助かっている。
- ・新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化は特にならない。
- ・ハローワークと学校との連絡方法を改善してほしい。(メール連絡等)
- ・高校生の就職ルールを把握していない企業がある程度見られる。
高校側が個別で対応するのは難しいので、監督官庁に指導してもらいたい。
- ・採用が厳しくなる状況を鑑みて例年以上に丁寧に生徒指導を行っていただいている。
- ・求人票などではわからない情報を教えていただき非常に助かっている。
(男性が多い職種でも女性を必要としている情報を教えていただき採用に至った)
- ・面接練習などの指導をお願いしており、予定していなかった直前の面接指導にも対応していただき大変助かった。

11 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・進路状況に関する調査など同じような内容の調査内容なのに微妙に項目等が違ったりしているため、何度も作業をしなければならず非常に煩雑であるし、ミスにもつながるのでぜひ改善してほしい。(①②④⑤)
- ・ハローワークへ提出する月々の内定者の報告書が手間なのでもう少し改善を願いたい。(④)

(北信越ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・接客・宿泊業・販売・営業・金融・事務・サービス業・繊維関係・調理系が大きく減少した。
福祉介護に関しては昨年以上に採用意欲が高い。また、製造・建設業は昨年並みの求人がある。
全体としては2割程度の減。介護・建築・土木の増加。また、県外求人は増加。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・2社程度あった。
- ・こうした求人については、生徒に良く説明した上で、極力応募させない方向で指導している。

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲】

- ・適性検査をWebで実施したところがあった。
- ・解禁日に実施する企業が大半。1週間以内での試験がほとんどであり、昨年度の分散傾向とは異なる。
- ・県外企業の対面面接を拒否する保護者がいた。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・特になし。

(5) 学科・課程・地域での特徴(9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・例年と差異は無いが、工業科の求人が好調。工業科に限定した求人を出している企業でも、採用を控えたりあるいは普通科にも採用の対象を広げたりしている。
- ・多くの生徒が自分の学科の特性を生かせる企業に就職した。
- ・定時制や支援学校も例年と大変わりしていない。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・専門学科で就職希望から進学希望になる生徒が多少見られた。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する影響による家庭の状況悪化で進学から就職への変更が多少あった程度。

(7) 求人取消の状況

- ・1件だけ取り消しがあったが、希望生徒がいなかったので影響なし。
- ・繊維関係で1社、応募前見学前に求人取り消しの連絡があった。
- ・出願書類提出後に求人票記載の職種での採用はないと連絡があり、企業側が生徒と保護者に謝罪を行った。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・上級学校の学生が応募しないので、高校生に求人を出す企業が増えたため、大学生と同じように内定式や事前研修をしようとする企業があり、高校の授業日と重なり不都合になることがある。
- ・一定期間高校生の応募を待ったが、その間に専門学校生で充足したため高校生の募集を打ち切ったという事例がある。
- ・専門学校生の応募が多く、残念ながら高校生は不採用という事例があった。

(9) その他

- ・1社あたりの採用予定者数を減らしてきた企業が多い。
- ・真面目な生徒よりも、積極性やコミュニケーション能力を評価している事業所が多くなった。
- ・求人票に記載してあった試験科目と就職試験案内に届いた試験科目に違いがあり入社試験に行かなかった。
- ・試験前日に会場に入る前に検温して熱があったら受験させない。再試験も行わないと連絡があった。
- ・内定後個人宅に、準中型自動車免許を入社日まで取得してほしいと書面で連絡があった。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)(Webを利用した職場見学の状況を含めて)

- ・Webを利用した説明会が開催されたが、現場を見ずに会社を決めるのは難しいと感じである。
- ・県外企業でWebを利用した面接や適性試験が数社あった。

(2) 応募書類(健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について)

- ・性別、身長、体重を記載する必要性に疑問が残る。
- ・健康診断の実施がギリギリであった。

(3) その他

- ・支援学校は例年通り就業体験を通して雇用の可能性を判断していただいている。

3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援(就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習)の活用状況、効果、課題及び要望等について(新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む)

(1) 職業安定機関によるもの

- ・昨年度まで実施されていた、地区の合同職場説明会が中止となり、そのような企画は行われていない。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・企業紹介雑誌・動画配布・配信等を実施していただける企業があり、助かっている。
- ・障がいのある生徒の就職について、生徒本人、保護者、学年が相談している。
- ・キャリア教育アドバイザーによるレクチャーで代替した。

4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について

(1) 令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など

- ・入社式延期数社あった。
- ・勤務日数が減少し給与2割減。(特別支援学校)

- (2) **学校が臨時休業となった就職準備への影響** (指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など)
- ・例年行っている企業見学や就職ガイダンスがなくなり、4～5月に生徒が就職に向けて気持ちを作る時期に指導ができず、生徒の就職への意識づけが遅くなってしまった。
 - ・校内の進学・就職希望の掌握に時間がかかった。
 - ・直近の卒業生が就業している事業所への挨拶回りが電話での対応となり、事業所との信頼関係の構築ができにくかった。
- (3) **求人の傾向** (求人数などに変化のあった業種、職種等について)
- ・ホテル・飲食・販売等の接客やサービス業の減少。非公開求人も減った
 - ・製造業で採用予定人数は多少減少したが、あまり影響はなかった。
 - ・1社あたりの求人数が減少した。
 - ・募集自体しなくなった企業も多少出てきた。
- (4) **他の地域との自粛など状況が異なることからの影響**
- ・県外企業の見学で、生徒が保護者の自家用車で出向いたものがよくあった。
 - ・企業によっては見学時期を後ろ倒し、オンラインでの見学(説明会)だった。
 - ・地元志向が強いので、あまり影響を感じていない。
- (5) **採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など**
- ・1ヶ月遅れになったことが、準備等の関係で非常にありがたかった。来年度からも、この日程でお願いしたい。
 - ・いつもなら夏休み中に行っていた履歴書指導や面接指導が、授業日に行わなければならない、生徒の準備が大変であった。
 - ・推薦で進学を希望する生徒との対応が重なり、履歴書や面接指導が困難であった。
 - ・専門学科では、就職希望者の緊張感が持続していたので、学校全体が落ち着いていた。
 - ・一次試験が不調に終わった生徒が例年以上に焦りを感じている。
- (6) **就職試験の状況** (Webを利用した面接試験など)
- ・県外企業で数社Web面接があった。県内ではWeb利用は今のところないし、今後もないようだ。
 - ・応募前見学の時期が長くとれたので余裕があった。
 - ・例年通りだが、マスクや消毒、密を避けるための分散形式もあった。
- (7) **その他**
- ・特になし。
- 5 **職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について**
- (1) **就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター)等)の就職支援**
- ・模擬面接官や内定者セミナーの講師をお願いしている。
 - ・支援学校では有効活用させていただき、大変助かっている。相談員なしでは就職指導は滞ると思う。毎年、最後の最後になった生徒がお世話になっている。
 - ・ジョブサポーターの方には通信制の生徒をよくさせていただき、生徒や教員にアドバイス・情報提供をしていただき助かっている。
- (2) **生徒、保護者への講義・講話、企業説明等**(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)
- ・企業比較において大変有用であり、今後も実施していただきたい。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全校規模の保護者向け進路講話の実施はできなかった。
- (3) **その他・要望・意見**
- ・生徒と保護者に対する就職ガイダンス事業がもっとあれば、今よりも進路選択のミスマッチが防げる。
 - ・調査や報告の事項が多く、教育現場(担当)としては辛い。
 - ・講師の方が日曜日に来ていただけない現状がある。
 - ・採用試験一ヶ月後ろ倒しを、今後も継続してほしい。
- 6 **厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)**
- ・求人票公開を半月でも早めてほしい。もしくは就職実施日を今年度同様にしてほしい。
 - ・学校現場の意見をしっかりと吸い上げてほしい。
 - ・管内の企業を知る機会が余りにも少ない。進学した生徒は、地元に戻ってこようとしても、企業を知らないため戻りにくいのではないか。
 - ・就職開拓員・就職専任員を学校配備してほしい。
- 7 **ユースエール認定制度について(認定制度の認知度、地域での浸透具合)**
- ・認知されていない。制度自体を知らない職員が多い。
 - ・生徒にその趣旨は伝えているが、どこまで企業選択に影響しているかは不明。
- 8 **「高卒求人情報WEBサービス」について**
- (1) **その活用例と意見・要望・改善してほしい点** (パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて)
- ・求人番号の前にあるNO(通し番号)は新着になるごとに変えないでほしい。
 - ・7月当初に配付される求人冊子は6月末現在で求人のある企業のみが掲載されるため、それ以降に求人があった場合は、「高卒求人情報WEBサービス」で情報を入手するしかない。

- ・全員が情報を平等に入手できるように生徒にパスワードの情報を伝えるのは仕方がないことだと考える。
- ・保護者にも閲覧可能とし、生徒とともに考えていただけるようにしてほしい。
- ・データをエクセルで利用できるようにしてほしい。
- ・二次募集の企業を検索するにあたって、すでに求人が終了した企業の求人が残っているのではないかと思う場合がある。
- ・完全なオープンが望ましい。

(2) 新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など

- ・給料の手取額を記載してほしい。
- ・検索しにくい職業分類があるので、どのようにカテゴライズしているか一覧表があるとありがたい。
- ・応募数・採用数・離職数を明記してほしい。
- ・障害者枠の検索がしやすいようにしてほしい。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・教育委員会から示されたものを使用し実施している。

10 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・障がい者求職登録で大変お世話になっている。
- ・学校からの申し出を待つのでは無く、未内定者のいる学校と連携して積極的に働いてほしい。

11 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・来年度以降も今年度と同様の時期の解禁ならば、生徒たちにもミスマッチにならない企業選択が可能な時間が与えられると思われる。(①⑥)
- ・就職支援に関わる各種調査や報告を精選、減らしてほしい。調査依頼の依頼側のミスも多かった。また、世界的なコロナ禍の緊急事態において、新規の事業案内と、その検討や報告を求めるのは、理解できない。(⑤)
- ・初めて高卒求人を出す企業担当者が、一人一社制を十分に理解していない。(①④)
- ・不採用の理由を明確にしてほしい。(⑥)
- ・専任進路指導員が必要急務である。授業をやりながら各企業とコンタクトをとり、開拓を行い、様々な雑務をこなし、一生を左右する生徒の進路指導業務を行うことは、何かを削らないと無理がでる。(②⑤)
- ・月ごとに内定状況報告をしているが、ハローワークと都道府県教育委員会とで報告様式が異なっていて手間がかかる。統一するか、どちらか一方にしてほしい。(②④⑤)
- ・障がい者雇用についての理解、雇用拡大してほしい。(①②③④⑤⑥)
- ・企業研究は実際にその企業に出向いたりしないとイケないが、なかなかそういった機会も得られないため、ぜひ生徒と企業を結ぶイベントを多く実施してほしい。(④⑤⑥)
- ・複数応募解禁月以降の募集について、企業への周知や学校とのトラブル防止に協力に取り組んでほしい。(①②④⑤⑥)

(東海ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・求人数が3割程度減少した。
- ・製造業(自動車・航空機関連)で求人数が大幅に減少し、建設業の求人数は増加した。
- ・指定校求人は減少した。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・ほとんどない。

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】

- ・適性試験を実施する企業が増えた。
- ・グループディスカッションやグループワークを課す企業が増えた。
- ・採用試験当日に合否を伝えられた。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・特になし。

(5) 学科・課程・地域での特徴(9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・事務系職種の競合で、倍率が非常に高い企業があった。
- ・自動車関連企業で生産台数が増加し、10月以降二次募集の求人票が出た。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・給与面より定期的な休日があり、残業が多すぎない企業を選択する生徒が増加した。
- ・保護者は大手志向、地元志向であり、生徒は主体的に企業選びをできていない傾向がある。
- ・地元の大手企業(特に自動車関連企業)を希望する生徒が多かった。
- ・経済的な理由で、進学から就職に変更する生徒がいた。

- ・普通科で就職から進学に変更する生徒が例年より多かった。

(7) 求人取消の状況

- ・各県でそれぞれ応募前に、指定校求人取消の連絡が数社あった。
- ・飲食業、販売業で求人を取り消しがあった。
- ・応募前見学の依頼をした時点で募集を中止すると言われた。求人票を出した高校とハローワークには、求人取消の連絡がほしい。

(8) 上級学校（四大・短大・専門学校等）との競合状況

- ・例年と変わらず競合はほとんどなかった。

(9) その他

- ・同じ求人票を何度も送付されると、重複受付になり、事務処理に影響が出た。
- ・県外から郵送されてくる求人票が非常に多い。責任を持って生徒に紹介できる企業であるかの判断が難しい。
- ・同じ求人票を何度も送付されると、重複受付になり、事務処理に影響が出た。
- ・県外から郵送されてくる求人票が非常に多い。責任を持って生徒に紹介できる企業であるかの判断が難しい。

2 就職慣行（一人一社制）の遵守について

(1) 応募前職場見学（早期選考がないかなど）（Webを利用した職場見学の状況を含めて）

- ・製造業を中心にWebを利用した職場見学があった。
- ・応募前職場見学の受け入れを定員超過で断られることがあった。
- ・夏季休業が短縮したため、多くの企業は日程や受け入れ人数等、柔軟に対応してくれた。

(2) 応募書類（健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について）

- ・応募時に企業独自のエントリーシート（大学生と共通）の提出を求められた。
- ・多くの高校で7月までに健康診断を実施できたので、特に影響はなかった。

(3) その他

- ・就職試験実施後1週間以内の合否連絡が徹底されない。不採用となった生徒の今後の就職活動が遅れ、支障をきたした。
- ・就職解禁日以前に就職試験を計画する企業がある。
- ・内定式、懇談会、健康診断及び制服採寸等が平日の授業があるときに行われる事業所がある。公欠で参加させるべきか苦慮している。
- ・数日にわたり3次試験まで行うことはやめてほしい。

3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援（就職面接会・ジョブ・フェア〔合同職場説明会〕・就職準備講習）の活用状況、効果、課題及び要望等について（新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む）

(1) 職業安定機関によるもの

- ・企業との情報交換会が行われず、高校側、企業側双方が情報収集することが困難であった。
- ・管轄するハローワークによって企業への指導に温度差がある。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・民間企業主催の合同会社説明会が開催された。

4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について

(1) 令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など

- ・求人票に記載されていない勤務地への配置の相談を持ち掛けられた。
- ・サービス関係の業種で自宅待機が長い生徒がいた。

(2) 学校が臨時休業となった就職準備への影響（指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など）

- ・企業の採用担当者が高校に来校できず、情報を得ることができなかった。
- ・人事担当者と事前にアポイントを取り、来校時にはマスク着用、消毒等感染防止対策を行った。
- ・就職希望者と進学希望者への指導する時期が重なってしまい、指導がしにくかった。
- ・学校休業中に、進路を確認するため、生徒と担任の面接を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症による就職試験の影響について、臨時で保護者向き進路指導会を行った。
- ・選考までの日程確保のため校内選考日を例年より20日程度遅らせた学校と、面接指導の時間確保のため変更しなかった学校があった。
- ・生徒の意識付けや気持ちを就職試験へ向かわせる準備時間が取れなかった。そのため企業研究が十分にできず、知名度が高い企業を選ぶ生徒が多かった。
- ・就職ガイダンス、保護者会等が実施できなかったため、3年生の就職への意識付けに例年以上に時間を要した。

(3) 求人の傾向（求人数などに変化のあった業種、職種等について）

- ・IT企業のプログラマー・システムエンジニアの求人数が減少した。
- ・製造業大手の指定校求人的人数が大きく減少した。

(4) 他の地域との自粛など状況が異なることからの影響

- ・地元志向が強く特に問題はない。

(5) 採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など

- ・もっと早く日程変更の通知を出すべきである。(他の学校行事との調整が大変であった。)
- ・就職するか進学するのかの進路選択の幅が狭まった。(就職試験不合格者が大学進学に変更しようと考えたが、出願時期がほとんど終了しており不可能であった。)
- ・企業は例年より早期に内定を出してくれた。しかし一部11月以降不採用通知が出て、その後の就職活動に支障をきたした。
- ・就職試験応募先決定から採用試験まで2か月以上あり、集中力が持続しない生徒がいた。
- ・就職選考会を例年より遅らせた学校は、応募書類の準備が2学期の平日に行われ、生徒も教員も負担が大きかった。その反面就職選考会が例年と同じ時期の学校は例年よりも時間をかけることができた。

(6) 就職試験の状況 (Webを利用した面接試験など)

- ・労働局から対面での面接試験を行うよう、企業に指導していただき、Webを利用した面接はほとんどか行われなかった。
- ・学校で実施する場合は、教員の付き添いが必要であり、負担が増加した。
- ・企業から機器などを学校で用意してほしいとの要望が多かった。しかし、機器のスペック、部活動やチャイムの騒音、使用できる場所等で対応できない。
- ・Webを利用した面接試験は実施する環境等から公平性が保たれるか心配である。
- ・Webを利用した面接試験はなかったが、適性検査や応募前見学では、Webを利用する企業があった。
- ・事前に書いた作文を提出させたりする企業があった。

(7) その他

- ・特になし。

5 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター))等の就職支援

- ・就職支援相談員と高校とがコミュニケーションを図っている。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)

- ・職業ガイダンス(就職活動支援コース)保護者会、講演会、説明会など、ほとんどの事業が中止された。

(3) その他・要望・意見

- ・来年度求人数が減少して、就職活動が困難になると予想される。就職支援相談員と協力して進路指導にあたりたい。

6 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・生徒と受験先企業決定の進路相談の時間をもっと設けたいので、求人票の公開を半月から1ヶ月早めてほしい。
- ・求人票受付時は学期末の成績処理等大変多忙である。求人票をデジタル情報(CSV形式等)で提供してほしい。
- ・定時制高校に在籍する外国籍生徒や、学習障がいや発達障がいなどを抱える生徒に対する就職支援の充実を図ってほしい。
- ・障がい者手帳をもっておらずグレーゾーンと言われている生徒は、適性検査等の結果で採用されないケースがある。支援の充実をお願いしたい。
- ・障がいのある生徒向けの正社員の求人が少ない。雇用率だけでなく、もっと障がいのある者が意欲的に社会に参画していけるような施策にしてほしい。

7 ユースエール認定制度について(認定制度の認知度、地域での浸透具合)

- ・認知度は低く、制度について内容を理解していない学校が多い。

8 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点(パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて)

- ・例年あまり活用していなかったが、今年度は積極的に利用した。
- ・求人の充足・未充足状況がその都度わかると指導上ありがたい。

(2) 新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など

- ・推薦依頼総数(高校数と人数)を記載していない労働局管轄の求人票があった。生徒への指導上記載してほしい。
- ・簡素化され過ぎて、必要な情報が不足している。
- ・フリーワード、企業名のみで検索できるようにしてほしい。
- ・「手取り額」「応募者数」の欄は進路決定上必要不可欠な事項であるので、欄を設けてほしい。
- ・応募先(書類送付先)住所、担当者の役付及び氏名はフルネームで記載してほしい。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・ホームルーム年間計画に位置づけ活用している。
- ・他校での実施例を知りたい。

10 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・集団面接、グループディスカッションの面接指導を実施し、相手の意見を適切に理解して、自分

の意見をまとめて話をすることができるようになった。

- ・障がい者枠で就職する生徒について、企業と学校の間に入り親身になって相談にのってもらった。
- ・県外の就職を希望する生徒に丁寧に相談に乗っていただき、就職先を斡旋してもらった。
- ・一次試験不合格者が出た場合、ハローワークの学卒担当者と各高校就職指導担当者ととの連絡を密にしてほしい。

11 関係機関（①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等）に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・ICTの活用に向けて、早急に環境整備してほしい。（①②④⑤）
- ・内定後の企業説明会、見学会、内定式、健康診断、懇談会、各種研修、入社前課題等は高校生の学業優先の観点から、卒業後に実施するよう指導してほしい。（①②③④⑤⑥）
- ・来年度は例年の就職日程に戻してほしい。（①②③④⑤⑥）
- ・外国籍の生徒への面接の質問の仕方(国籍や在留資格)などを整理してほしい。（①②④⑤）
- ・昨年1月から厚生労働省の新システムが運用開始されたので、各高校への調査を減らし、システム上で処理してほしい。（①④）
- ・進路指導に関する多くの報告、調査があるので、様式や方法を統一してほしい。（①②④⑤）

(近畿ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・指定校求人は減少、公開求人が増加、全体としては減少している。また、他府県からの求人も減少傾向である。
- ・飲食業、観光業、卸売業、小売業で減少、建設業、運送業は堅調、介護などは増加。ただ、事務職は府県により増減がある。
- ・大手企業が業績悪化による求人数の減少もしくは取り消しをする傾向がある。反面、その関連会社や下請け会社の求人数は増加傾向にある。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・求人が派遣社員採用から正社員採用に変更された。
- ・有期雇用の増加、なしともに報告がある。派遣求人は数件である。

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】

- ・例年と変わらないか、やや厳しい状況である。一次募集で充足している企業が例年より多く、二次募集で応募する事業所選択に苦慮している。また、不採用の結果、採用人数を下回っている事業所もある。
- ・選考日が遅く設定された事業所があり、不採用の場合は後の対応に苦労した。
- ・職種によっては、面接や計算力を重視する傾向が増し、前回よりも厳しい採用状況である。
- ・10/16～25にWeb適性を学校で実施する計画であったが、必要書類が10/16になっても届かず10/19に届いた。
- ・求人票に記載のない試験を実施しようとした企業があり、申し入れしたが実施された。
- ・面接で本人が発言した家族状況を理由に懸念を示し、採用を見送るような動きがあった。家族の状況を問い合わせる内容がFaxで送付されてきたのでハローワークへ報告した。
- ・応募書類を送付後、選考案内ではなく「内定通知書」を送付してきた事業所があった。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・試験前の一週間ぐらい検温を義務付けていた。
- ・新型コロナに感染者だけでなく、濃厚接触者や37.5℃以上の熱など感染が疑われる症状のある生徒は、別日程でスケジュールを考える企業が多数あった。

(5) 学科・課程・地域での特徴(9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・欠席日数について、定時制高校の状況を加味せずに問題視されるのは違和感を覚える。
- ・9月卒業生で就職希望の生徒がいた。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・昨年度よりも就職希望者が増加。家庭環境を考え自から就職希望と考える生徒もいる。学校によっては、就職から進学へ変更する生徒も例年に比べて増加している。
- ・就職を希望する生徒の割合が年々高くなっている。しかし、就職に対する意識や意欲が低い生徒も多くなっている。
- ・大手企業や公務員の人気が高かった。
- ・定時制の生徒について、正規雇用を強く希望する。

(7) 求人取消の状況

- ・会社見学後に会社ホームページで募集終了の旨を発表した事業所があった。学校への連絡はなかった。
- ・校内選考後に指定校求人や公開求人取消が複数あった。また、採用人数を減らす企業も複数あり、倍率がかなり高くなった。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・高卒求人を選考が1か月遅くなり、大卒で採用がほぼ埋まってしまったという企業があった。
- ・高卒求人のみを募集をしていた企業が、今年度は大卒求人を出していた。
- ・上級学校の内定状況で高卒求人を考えるなど高卒求人を調節弁として扱っているのではないかと勘ぐってしまう。

(9) その他

- ・内定後に内定取り消しがあった。労働局・教育委員会に連絡した。
- ・応募と異なる職種での採用通知(製造業から事務職、介護事務から介護など)があった。
- ・10/5の朝に人事担当者から「複数の学校から応募書類が既に届いているが、そちらの学校はまだか」との問い合わせの電話が入った。当該校は10/5配達日指定で応募書類を郵送していた。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)(Webを利用した職場見学の状況を含めて)

- ・Web見学では生徒が得るものは少ないように思われる。
- ・コロナを理由で、事前説明会を締め切り日以前に人数制限で締め切る企業があった。
- ・応募前職場見学を必須条件にしている事業所があった。
- ・Webでは校内で場所や人員等の環境を整えるのに苦労した。
- ・応募前企業見学に行った段階で内定を言われた生徒がいた。

(2) 応募書類(健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について)

- ・就職希望者の生徒に対して、優先して必要な検診を行った。間に合わずに、昨年度の記録を使用した学校もある。
- ・LGBTの生徒の調査書における性別の扱いに困った。障がいや病気のある生徒については病名等を記述したいが、欄が狭い。

(3) その他

- ・内定者向けの連絡などWebを活用する事例があり、生徒のメールアドレスで登録するところもあった。学校としてやりとりの全般が見えにくい。

3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援(就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習)の活用状況、効果、課題及び要望等について(新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む)

(1) 職業安定機関によるもの

- ・管轄内の事業所との情報交換会がなかったため、若干影響があった。また、障がい者雇用の合同求人説明会が無くなった。
- ・地元企業に呼びかけていただき、企業説明会を学校で実施した。
- ・定時制、通信制対象の就職フェア2021に参加し、就職への意識が高まった。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・就職ガイダンスにおいて講師が派遣されるかどうか直前でないとわからなかったため、活用がむずかしい。
- ・合同説明会への生徒の参加申し込みを生徒のスマホからラインで登録することになっていた。不適切に感じ別の申込方法を設定するよう求めたが、返答はなかった。

4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について

(1) 令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など

- ・一部の事業所では自宅待機が命じられ、給与が満額支給されていないことがあった。
- ・3/21の研修が感染症拡大の影響で中止、4/1は出社しない形、4/3「内定取り消し」の通知。ハローワークおよび弊社学校法人の顧問弁護士のアドバイスで、4/1入社、4/3事業者都合退職の形とし、1か月分給与の60%は払ってもらう話(5、6月)が未払いである。該当生徒は、学校斡旋で再就職した。
- ・採用された職種での仕事がなくなり、他の職種への異動を迫られて退職したケースがあった。
- ・閉業による失業者や労働条件の変更があった。

(2) 学校が臨時休業となった就職準備への影響(指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など)

- ・求人開拓が思うようにできなかった。
- ・就職指導が遅れ、生徒の就職に対するモチベーションが低く、採用試験に影響があった。
- ・夏休みが短縮されたことで、進路決定に向けての指導(事業所見学、個別面談、三者面談、面接指導、履歴書等の指導)に十分な時間が確保できず困難であった。
- ・日程変更が急遽で学校運営が大いに混乱した。もっと早くに通知してほしい。

(3) 求人の傾向(求人数などに変化のあった業種、職種等について)

- ・設備保全などは堅調、建設業や介護職の求人は増加、事務職が非常に厳しい倍率になった。
- ・企業の経営状況の影響を受け、採用見送りする事業所がある。
- ・観光業に関わる製造や販売業、ホテル関係の求人が減少している。

(4) 他の地域との自粛など状況が異なることからの影響

- ・本社(関東・東海)での採用試験実施予定であったものが、就業場所での実施に変更になった。
- ・地元の府県、市町村の基準が厳しく、休業となって困った。

(5) 採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など

- ・進学指導の時期と重なったことと、授業と並行しての就職指導となったので、十分な就職指導ができていない。
- ・学校によっては、余裕をもって履歴書作成や面接指導ができたという意見もある。
- ・夏休みの短縮や授業と並行して実施となり、応募前職場見学の日程調整が困難であった。また、専門学生は早くから動いており、事業所は専門学生で充足すれば募集が終わり、高校まで回ってこないように感じた。この遅れは、就職希望者には痛手であった。
- ・不採用の結果をいただいた後、就職から進学へ進路変更をする生徒がいるが、1ヶ月遅れとなったので、入試に向けての準備期間が減り、受験できる入試方法の選択肢も少なくなっている。
- ・進路指導をする時間を確保でき、企業分析、面談、履歴書作成、面接指導など、落ち着いてができたという意見も一部あった。
- ・進路指導の時間は稼げたが、間延びした感があり、生徒のモチベーションを維持させるのに苦労した。

(6) 就職試験の状況 (Webを利用した面接試験など)

- ・教員側がPCの準備や環境を設定しなければならないので、困る部分も色々と発生した。
- ・土曜日にWeb面接を校内で実施せざるを得なかった。学校の環境や指導体制などが整っておらず大変であった。
- ・学校の施設面でWeb対応が難しいことを伝えると、採用試験を断るような口ぶりの企業があった。
- ・面接試験でフェイスガード、マウスガードが配布されるケースが複数見られた。
- ・2週間前からの検温や接客を伴うアルバイトの禁止の指示があった。
- ・応募後、事前の相談なしにWebによる適性検査や面接試験の実施を連絡してきた企業が複数あった。
- ・学校でのWeb面接は、インターネット環境が整った場所や人員の配置等、教師の負担が生じた。

(7) その他

- ・一部の学校では、例年は就職指導に余裕があまりないが10/16に選考開始となり、2学期からの就職指導に時間的余裕ができた。また、早期に就職内定がでないため進学を考えている他生徒への影響も少なく、学業に良い影響があった。今後も望む。
- ・採用試験後2週間後の結果報告が2社あり、遅すぎるように感じた。
- ・感染防止のために試験日や会場を分散して選考をした事業所では、11月まで選考結果が出なかった。
- ・休日に選考日を設定され、学校職員が休日出勤で欠席連絡の対応をするか、学校職員の携帯番号を伝える必要が生じた。企業の「選考」業務を、学校職員の負担を前提で設定している。

5 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター))等の就職支援

- ・ハローワークの担当者との連携が上手に取れていたため、特にナビゲーターの利用はしなかった。
- ・障害者手帳を持つ生徒や病気などで配慮を要する生徒の就職活動に尽力してもらっている。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)

- ・保護者向けの就職説明会(生徒も同伴)を実施した。会場を分散させて、保護者説明会を行った学校もあった。
- ・職業安定所からの就職ガイダンスを学校を会場として受けることができた。
- ・生徒・保護者から、就職内定者への支援(キャリアシミュレーション)が好評であった。

(3) その他・要望・意見

- ・発達障がいや軽度の障がい者雇用に関する情報が少ない。
- ・土曜日でも実施可能にしてほしい。

6 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・就職指導支援者を必要な学校に送ってほしい。
- ・大きな変更(就職試験の日程など)については、発表で知るのではなく事前に学校関係者に知らせしてほしい。
- ・コロナ禍による求人減少への対策と、コロナ対策を考慮した就職ガイダンス事業の実施などをしてほしい。
- ・効率ばかりを考えるのではなく、生徒側に立った改革を望んでいる。

7 ユースエール認定制度について(認定制度の認知度、地域での浸透具合)

- ・大変良い制度であると思うが認知度が低い。また、制度に該当する企業も少ない。
- ・ユースエール認定制度の内容がよくわからないので、活用していない。

8 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点(パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて)

- ・もう少し検索をしやすくしてほしい。
- ・募集が終了した企業は速やかに掲載を止めてほしい。

- ・各職安の管轄エリアがわからないため、検索がしづらいので、管轄のエリアマップをつけてほしい。
- ・生徒や保護者の方にも伝えた方が、家庭でも相談できる機会が増えるのではないかという意見もあるが、高校生求人のためには現状のままで学校だけで管理するほうがよい。

(2) 新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など

- ・「戻る」ボタンや「andやor」の条件を付けて検索できるようにしてほしい。企業の絞り込みがやりにくい。
- ・新求人票は給与面(手取り額など)が簡略化されたり、補足事項の欄が狭くなったことで情報が不足している。必要な情報を記載できるように改良してほしい。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・「学校と地域でつくる学びの未来」は聞いたことがない。
- ・記録を残すためのパスポート(紙のファイル)を作成し、1年生から模試や行事等があれば可能な範囲でファイルに記録を綴じさせているが、それ以上のことは何もしていない。

10 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・とても良く協力してもらっている。
- ・管轄外のハローワークとのやり取りが非常に大変であった。
- ・高校から企業への申し入れには限界があるため、違反質問などへの指導・対応を行政としてもしていただきたい。
- ・定期的に連絡があり、状況をお知らせしている。また、趣旨違反事象が発生した際や、障がいを持った生徒の対応など相談にも応じてくれている。
- ・発達障がいやてんかん、持病のある生徒の就職に対する支援を強化してほしい。
- ・障がいを持った生徒の相談を通じて、就職内定につながった。

11 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・Webで企業紹介や採用選考が今後も続くのであれば、デジタル・ディバイドの解消をしてほしい。(①②③)
- ・就職選考で、Web(面接、SPI試験、適性試験)で実施する企業が複数あった。学校の環境を整えるために必要な機材などを購入する必要があることを伝えたが、適切に対応してもらえなかった。教員が個人持ちの機材などで準備して対応をした。複数社が同時(時間帯が異なっても同じ日であれば準備を考えると厳しい)であれば対応できなかった。こんな時期だから別途予算が必要である。(①②③⑤)
- ・都道府県で異なっている就職慣習をできるだけ統一してほしい。(①)
- ・行政窓口ごとに異なる報告書の様式・内容を統一化してほしい。(②③④⑤)
- ・コロナの影響での就職選考開始の変更の決定が遅く、就職指導計画を急遽変更せざるを得なかった。学校現場の状況を考えて早めに決定・対応してほしい。(①②)
- ・早期離職対策の一環として、学校から企業への「つなぎ」を密にできる対策をしてほしい。(①②⑥)
- ・障がい者枠の求人情報を特別支援学校以外の生徒は12月まで閲覧できないので、普通科や専門学科の高校在籍の発達障がいのある生徒も閲覧できるようにしてほしい。(①)
- ・「一人一社制」は高校生の就職に非常に大切なとりくみだと考えるので、各関係機関から「一人一社制」の継続を求めている。(①②③④⑤⑥)
- ・一人一社制の撤廃を進めるように、新聞等のマスコミを使って一方的な情報を流す動きに対してきちんとコメントを出してほしい。特にワーキンググループの報告を歪曲した内容で書かれた記事に対しては否定をしてほしい。(①②)
- ・複数応募が可となると就職指導が困難になり、生徒が複数の履歴書を同時に作成できない。教員にも生徒にも負担が増える。(①②③④⑤⑥)
- ・一人一社制は今後も継続してもらいたい。複数応募では、試験日程の調整が困難である。同時に2社に応募すれば、生徒の企業研究や面接対策・試験対策等で困難が予想される。生徒・学校・企業いずれも負担が大きくなるだけでメリットは感じられない。(①②③④⑤⑥)

(中国ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※ 新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・特になし。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・数件あったが、試用期間を経て正社員登用されるケースがほとんど。昨年度より減少した。

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】

- ・Webによる試験・面接があった。
- ・試験については、密にならないように集合時間をずらして実施されるなど、企業側の工夫が感じられた。

- ・求人表に記載のある期限内に結果通知がなかった企業がある。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・特になし。

(5) 学科・課程・地域での特徴(9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・県外就職を希望する生徒の割合が例年に比べて多かった。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・金銭的な面から進学をあきらめて就職を希望する生徒がいる。
- ・社会情勢を受けて進学希望者が増えた。

(7) 求人取消の状況

- ・各県とも数件あった。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・今年度は、求人数を絞り込み、上級学校と競合させて採用しているのではないかという感触の企業がある。

(9) その他

- ・公務員試験との併願者について、例年と受験の順序が逆転したため対応の仕方に戸惑いを感じた。
- ・指定校求人から公開求人へ切り替える企業もあった。
- ・公務員(消防、警察)は上級学校からの受験が多く、苦戦した。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)(Webを利用した職場見学の状況を含めて)

- ・コロナ禍のため応募前見学が延期になり、応募書類を提出してから応募前見学がある企業があった。
- ・Webによる企業説明会。

(2) 応募書類(健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について)

- ・応募までに健康診断実施。
- ・間に合わない場合は、2年生のものでよいという指示があった。

(3) その他

- ・応募書類受理から試験開始の連絡や試験開始までの待機期間が2週間以上と長い企業がある。
- ・試験結果の連絡が試験日から2週間以上かかる企業があるので、万一不合格の場合次の就職先決定に影響が出るので、1週間以内での可否連絡を希望する。
- ・選考方法が不正確(例:面接と記載されているが一次、二次面接があった。)
- ・面接時に別紙アンケートで健康状況を書かせた事業所があった。

3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援(就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習)の活用状況、効果、課題及び要望等について(新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む)

(1) 職業安定機関によるもの

- ・本年度は開催できなかつたところもあったが、生徒の意識高揚の意味からも非常に重要であると再認識した。
- ・DVDによるものが準備されたが、実施する学校の時程で視聴するのが難しく、今年度は参加しなかった。
- ・合同事業所説明会の夏季休業前の実施を希望する。密を避けるために複数回実施し、各学校を分散させてはどうか。
- ・事業所説明DVDの配布が遅く活用できなかった
- ・面接講習会を2度実施していただき、丁寧なフィードバックをいただいたところもあった。
- ・ハローワークの担当者に、就職準備講習会、面接練習、応募書類の記載指導等大変お世話になり助かった。
- ・今後はオンライン等でもセミナーを行えるよう設備が必要であると考えられる。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・高校生就職ガイダンス(就職準備支援期コース)は、Web視聴で双方向のやり取りができず、生徒の意識の差が内容理解の差につながってしまった。

4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について

(1) 令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など

- ・特になし。

(2) 学校が臨時休業となった就職準備への影響(指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など)

- ・学校が臨時休業となったことで、面談時間の確保が難しかった。
- ・4月、5月が外出活動自粛のため電話でしか本年度の求人状況を確認できなかった。実際訪問できるようになった6月だけしか活動できず例年より事業所への訪問件数が減った。また今年卒業した生徒への定着支援が全員できなかった。
- ・今後の課題として、簡略出来ることは今後もICT技術を利用し今後も活用したい。
- ・お互いに訪問を控えたため、事業所との連絡調整等が思うように進まなかった。
- ・手続きなどが1ヶ月後になったので、余裕を持って例年通りの指導ができた。

- ・採用試験解禁日が1か月延期されたことにより、進学希望者の指導時期と重なり、担任や学年団・進路指導部は多忙を極めた。
- (3) **求人への傾向(求人数などに変化のあった業種、職種等について)**
 - ・サービス(業宿泊・飲食・理美容等の業種)、営業職、製造業、事務系で求人の減少が目立ち、全体としては、2割程度減少している。
 - ・公務員(消防、警察)は上級学校からの受験が多く、苦戦した。
 - ・二次募集になって初めて例年求人を出してこない企業が訪問されるケースが数社あった。
- (4) **他の地域との自粛など状況が異なることからの影響**
 - ・就職希望を県外から県内に変更した生徒があった。
 - ・応募前職場見学の自粛要請あり
 - ・県外の企業ではリモートでの面接になった事業所があった。そのため面接で採用を判断するのでは無く、成績や筆記試験での判断になり面接で自分自身をアピールできない生徒がいた。
- (5) **採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など**
 - ・2社目の受験が遅くなり、期末考査への影響がある。
 - ・受験先を決定してから準備の時間がとれるので就職だけを考えれば、10月試験の方が良いと思われる。
 - ・進学の推薦入試出願と重なり、指導する教員の負担が多くなった。
- (6) **就職試験の状況(Webを利用した面接試験など)**
 - ・Webによる「会社説明」やリモート面接あり。環境、指導する教職員などの対策が必要。
- (7) **その他**
 - ・コロナの影響が長引いた場合、来年度(現2年次生)への影響が心配される。
 - ・教員の企業訪問は取りやめ、来客もお断りし、電話、郵便による情報交換とした。
 - ・ジョブサポーターによる就職講話を予定していたが、コロナの影響で派遣不可となった。
- 5 **職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について**
 - (1) **就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター)等)の就職支援**
 - ・効果があり、必要と考えている。
 - (2) **生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施する就職ガイダンス事業)**
 - ・大変有効であり、積極的に参加しているので、対面で継続実施を要望したい。
 - (3) **その他・要望・意見**
 - ・企業説明会に保護者も参加できるよう土日での開催も検討が必要ではないか。
- 6 **厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)**
 - ・特別支援を要する生徒に対する就職支援の拡充を求める。
 - ・最近では就職を希望する生徒の中に発達障害であると診断されている生徒が増えている。企業側が採用する時に障がい者の枠ではないため就職が難しい生徒が多い。何らかの形で事業所側にメリットがあり、採用に繋がるような制度を作してほしい。
- 7 **ユースエール認定制度について(認定制度の認知度、地域での浸透具合)**
 - ・この制度にかかわる、企業の紹介や求人はなく浸透しているとは言えない。
- 8 **「高卒求人情報WEBサービス」について**
 - (1) **その活用例と意見・要望・改善してほしい点(パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて)**
 - ・検索をしやすいように、開示基準を受付日基準でなく、公開日順にしていきたい。
 - (2) **新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など**
 - ・賞与についての記載内容が不正確。
 - ・一般求人のように、就業場所の地図を入れる。
 - ・手取り額がわかりにくくなった。
 - ・新求人票は、裏表1枚で印刷できるため、作業効率が良かった。
 - ・求人票内容に訂正・追加があった場合、訂正・追加の前後が分かるようにしてほしい。
- 9 **「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて**
 - ・キャリアパスポートは生徒全員が持ち、定期的な振り返りに活用しているところと十分な活用には至っていないところがある。
- 10 **ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。**
 - ・これまで、ハローワークと連携を取り、生徒の希望に沿った職種の企業を紹介していただいている。今後も連携を取りながら生徒の進路決定ができるようにしたい。
- 11 **関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。**
 - ・Webでの試験は学校では対応できない。きちんと企業に指導してほしい。(②④)
 - ・Webでの試験について、教員は企業の社員ではない。そのため、一部の企業のために就職試験の試験監督や面接の準備をすることは、本来の教員としての仕事としてどうかと思う。(②)
 - ・就職支援相談員の正規雇用化を望む。現在のような不安定な雇用では継続的な就職支援活動が難しい。(②⑤)
 - ・就職状況報告の統計について、厚生労働省の様式と総務省の様式が類似しているにもかかわらず

ず、別々に報告しなければならないため、統一するよう改善してもらいたい。(①)

(四国ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※ 新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・サービス業、飲食業、宿泊業、事務および自動車関連業が減少した。
- ・1社あたりの求人数が減少した。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・派遣求人、数年間は契約社員求人が介護の請負派遣や施設集団調理や医療事務で見られた。
- ・正社員への道はあるものの、数年間は契約社員での雇用とした求人が数社あったが、各高校とも生徒には推奨していない。

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】

- ・適性検査(SPI)をWebで行う企業が増えた。
- ・例年より可否の結果の連絡が早い企業が多かった。
- ・二次募集が減少した。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・特になし。

(5) 学科・課程・地域での特徴(9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・進学してさらに資格取得を考える生徒が増えた。
- ・地元志向が強い。
- ・農業法人の求人が減少した。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・県内志向が非常に強い。
- ・進学から就職に変更する生徒が増えた。
- ・希望の求人がなく、進学に変更する生徒がいた。

(7) 求人取消の状況

- ・航空関係、ホテル関係での求人取り消しが数社あった。
- ・生徒が応募前見学も行っていたが、生徒が履歴書も書き終えた後で求人が取り消された企業もあった。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・上級学校との内定状況により高校の採用枠に変化がある企業がある。
- ・上級学校の採用内定はしたが、高校求人は取り下げた企業もあった。
- ・製造業で高校生は現場、上級学校は営業と分けている企業もある。

(9) その他

- ・就職試験が1ヶ月遅くなったため、進学に変更する生徒の選択肢が狭められた。
- ・ホームページと求人票の求人数が異なる企業があった。また、求人票にない就職試験がホームページに載っている企業があり、実際の試験でその試験内容が問われた。
- ・就職試験が不合格で進学に変更した生徒がいた。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)(Webを利用した職場見学の状況を含めて)

- ・Web見学が増加した。
- ・時期が長くなった。
- ・スタートが遅れた。

(2) 応募書類(健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について)

- ・特に問題はなかった。
- ・9月に実施の学校もあった。

(3) その他

- ・一人一社制の遵守は、離職防止や本人の適性のためにも重要である。
- ・承諾書の他に保証人の記述を求めるものがあった。企業に申し入れ提出しなくてもよいことになった。

3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援(就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習)の活用状況、効果、課題及び要望等について(新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む)

(1) 職業安定機関によるもの

- ・厚生労働省主催の就職ガイダンスは、1日を2日に分け人数を減らしたり配慮をして開催した。
- ・合同説明会の中止でDVD視聴の代替えで行った。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・参加しない学校が多かった。
- ・コロナ感染症予防の観点から積極的な呼びかけをしなかった。

4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について

- (1) **令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など**
 - ・ 県外の就職者の自宅待機、オンライン研修の企業があった。
 - ・ 店舗閉鎖による解雇、別会社への転籍。
 - ・ 4月中旬に業績悪化に伴う「会社都合による退職」。
 - (2) **学校が臨時休業となった就職準備への影響（指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など）**
 - ・ 担任による進路指導が不十分であった。
 - ・ 職場開拓が十分行えなかったそのため生徒への情報が持てなかった。
 - ・ 選考時期の変更により進学为学校選抜型などの入試時期と重なり、担任の負担が大きくなった。
 - ・ 会社見学の時間が例年より十分行けた。
 - ・ 例年、夏期休業中に行っていた就職希望者に対する説明が、不十分になった。
 - ・ 就職試験と中間考査が重なり、進路行事の変更調整が大変だった。
 - (3) **求人の傾向（求人数などに変化のあった業種、職種等について）**
 - ・ ホテルや旅館業、飲食関係、サービス業が激減した。
 - ・ 自動車関連業種に影響を感じた。
 - ・ 1社あたりの採用予定者数、指定校数について厳しかった。
 - (4) **他の地域との自粛など状況が異なることからの影響**
 - ・ 事業所訪問ができなかった。
 - ・ 実際に見学などができなかった。
 - (5) **採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など**
 - ・ 8、9月に求人取り消しの企業があった。
 - ・ 夏休みが短かった分、余裕を持っての指導につながった。
 - ・ 不採用だった場合の生徒の公務員、進学への切り替えが間に合わない事への不安。
 - (6) **就職試験の状況（Webを利用した面接試験など）**
 - ・ 会社でなく、ホテルで行う企業があった。
 - ・ Webによる適性検査の企業があった。
 - ・ マスクの代わりにフェイスシールドを与えられて面接の企業があった。
 - (7) **その他**
 - ・ Web面接などのため土、日に出勤するなど影響があった。
 - ・ ネット環境の問題などトラブル対応の点など教員がそばで待機する必要があり、負担が大きい。
 - ・ 企業の業績悪化により、内定取り消しがあった。
- 5 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について**
- (1) **就職支援相談員（ナビゲーター（旧ジョブサポーター））等の就職支援**
 - ・ 学校に対する情報提供だけでなく、早期離職者を含む卒業生やその保護者に対しても丁寧に対応してもらっており、ありがたい。
 - ・ 求人票の見方や労働法に関する講習などで大変お世話になっている。些細なことでも親身になって相談に乗っていただけるので大変ありがたい存在である。今後も是非、継続していただきたい。
 - (2) **生徒、保護者への講義・講話、企業説明等（ハローワークが実施する就職ガイダンス事業）**
 - ・ 就職未内定者に対する就職ガイダンスは効果があるように思う。
 - ・ 地元企業理解に役立つと思う。
 - (3) **その他・要望・意見**
 - ・ 外部の専門機関との連携は必要である。
 - ・ 本年度は具体的な催し物も少なかった。
- 6 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）**
- ・ 求人票の公開を早めてほしい。夏休みまでの短期間に膨大な処理があり、8月の校内選考までに会社見学などで生徒の考える時間が少ない。
 - ・ オンライン面接指導の模範例や資料がほしい。
 - ・ 求人票の改訂（指定校の欄が無くなりわかりにくい）
- 7 ユースエール認定制度について（認定制度の認知度、地域での浸透具合）**
- ・ 認知度がまだまだ低い。
 - ・ PRが必要。
- 8 「高卒求人情報WEBサービス」について**
- (1) **その活用例と意見・要望・改善してほしい点（パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて）**
 - ・ 県外事業所で就業場所が県内である求人が探しやすい。
 - ・ 生徒、保護者には伝えず、校内で運用している。
 - ・ 生徒、保護者用のパスワードを作してほしい。
 - ・ 求人枠が埋まったら、直ちに取り消すように徹底してほしい
 - (2) **新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など**

- ・充足した求人については、削除などされる機能。
- ・ダウンロード機能。
- ・指定校の別紙の添付。
- ・新求人票では、何人応募して何人採用されたかが解らない。給与関係については、以前の方がわかりやすかった。
- ・企業名の検索がわかりづらい。

9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて

- ・総合的な学習の時間、探求学習に絡めて取り組んでいる。
- ・学校独自の授業や取り組み、学校行事から精選した内容で作成、蓄積を行っている。
- ・各学校の必要であろう内容のパターンを提示してほしい。

10 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・ハローワークの学卒担当者との連携を取り、情報交換や一般求人に向けて、ガイダンスや登録などを行っている。日頃から解らないことの質問など気軽に利用している。
- ・生徒の内定状況など気にかけていただき、地元企業との繋ぎ役としてアドバイスをいただけると期待している。
- ・リアルタイムで情報の共有が計れるとありがたい。
- ・高校求人にも慣れない企業に対して、一般求人との違いなど周知してほしい。

11 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・同じような内容の調査依頼が、それぞれ違う形式で来るのでデータ共有をしてほしい。(②④⑤)
- ・指定校が解るように求人票を改善してほしい。(①)
- ・産業分類、職業分類を統一してほしい。2種類の分類があり、分類番号、記号にずれがある。非常に非効率的なので、統一してほしい。(①②③④⑤⑥)
- ・日程変更など現場を混乱させることはやめてほしい。(①②③④⑤⑥)
- ・来年度も高校生の積極的な採用をしていただけるように働きかけてほしい。(①②③④⑤⑥)
- ・障がい者雇用率制度(法定雇用率)の達成率向上や合理的配慮の提供を推進してほしい。(①②③④⑤)
- ・報告書をメールにしてほしい。(④)

(九州ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について ※新型コロナウイルス感染症に伴う状況については、項目4で回答

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・全体の求人数が激減ではないが昨年比10～30%程減少した。特に県外求人が顕著である。
- ・造船業関連の求人がここ数年減少傾向にある。
- ・増加した業種は建設・建築・電気工事・介護福祉・携帯電話販売などだった。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・県によっては、ホテル・アパレルなど若干の業種で派遣求人があるものの、殆どなかった。

(3) 採用試験の状況【回答期限まででわかる範囲で】

- ・求人の減少に伴い全体的に不合格率が高くなった。リーマンショック以来の厳しい学校もある。
- ・一部の人気職種や好待遇求人に応募者が集中し不合格者が複数あった。
- ・本社会場ではなく、九州や県内に会場を変更して試験を実施した企業もあった。
- ・入社試験内容を一般常識からSPIに変更する企業やグループ討議を実施する企業があった。
- ・一応合格だが取消しの可能性もあるという意味で「内定」ではなく「保留」という通知があった。
- ・他の職種での採用という事例があった。
- ・採用試験の可否を事前に電話で知らせてくれる会社もあり、不合格の場合は早期に対応できた。
- ・二次、三次試験を課す企業や結果通知に時間がかかる企業が目立ち、不採用の時の危惧される。
- ・違反質問にあたるものもあったが、例年並みだった。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・災害で、試験が学校のPCでの実施や、試験日の延期や遅刻を認めていただくなど配慮があった。
- ・水害による臨時休校や、求人票の遅延や郵便局からの流出、進路ガイダンスの延期・中止があった学校では生徒の間にも動揺が走った。

(5) 学科・課程・地域での特徴(9月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・生徒の希望・合格率ともに県内が県外(特に関東・関西)を上回る傾向にある。
- ・求人数を増やした地域企業があった。地元のありがたさを改めて痛感した。
- ・専門学科(農業・工業・商業・福祉)では比較的順調に内定を頂いたが普通科には不利だっ

た。

- ・製造・建設・建築業を中心に学科を工業系に特定しない（学科不問）企業が増えてきた。
- ・土木科では学科の特性を生かして全員土木系の公務員を目指す学校もある。
- ・商業系の高校で、求人が減ったために、就職支援員による求人開拓を行っている学校もある。
- ・夜間コースとエンカレッジコースの併設校では日課が異なるため課外指導が困難である。
- ・定時制の9月卒業生の中には内定後同年度の秋冬より正社員として勤務を始めた生徒もいる。
- ・指定校推薦の枠を超えて出願する学校があり、他校に大きな影響が出たケースが報告された。

(6) 就職を希望する生徒について（進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて）

- ・求人数の減少を懸念してか進学へ変更する生徒がいた。逆もあり不合格につながった。
- ・給付型奨学金が拡充されたため、進学が増えた分、就職希望者は減少傾向にある。
- ・県内や通勤圏内に就職を希望する生徒が集中したため、複数校競合する地域もあった。
- ・アルバイト継続を希望していた生徒が新卒求人を希望する例もある。
- ・希望していた企業が募集を見送ったため、同業種の縁故就職へ変更したものが出た。

(7) 求人取消の状況

- ・観光・ホテル・旅館などを中心に受付後の取消しが増えた。応募直前の取り消しもあった。
- ・Web求人の取消しをしておらずに、応募後に「採用なし」という連絡を受けた事例があった。
- ・指定校求人でも、一部（調理職）で取り消しがあった。

(8) 上級学校（四大・短大・専門学校等）との競合状況

- ・競合はほとんどなかった県もある反面、専門学校生を増やし高卒求人を取りやめた企業もある。
- ・公務員は専門学校と競合する部分が出てくるとも懸念される。
- ・進学先と企業双方とも志望者確保に必死である。

(9) その他

- ・公務員試験でWeb面接の要望が多かった。県教委・労働局から対面へと変更してもらった。
- ・公務員で大卒程度と同じ日程（5月）に実施した自治体もあった。事前に対応する必要がある。

2 就職慣行（一人一社制）の遵守について

(1) 応募前職場見学（早期選考がないかなど）（Webを利用した職場見学の状況も含めて）

- ・積極的な企業も多く定着してきたが、コロナ禍で、やむなくWebまたは中止・延期となり情報収集が困難で見学無しで応募せざるを得ない事例もあった。またWeb環境の整備にも苦労した。
- ・コロナ禍においても感染防止対策を徹底した上で応募前職場見学会を開催して頂ける企業もある。
- ・見学に複数回行く生徒も増えてきているが、必ず受けてもらえると勘違いしている企業もある。

(2) 応募書類（健康診断の実施延期による身体状況の記載状況について）

- ・応募書類は特に問題はなく、調査書以上の情報を求められることもほぼ無い。
- ・内定通知と一緒に保護者氏名や保証人などを記載する書式を送り、記入を求めた企業があった。

(3) その他

- ・内定者に企業専用サイトへの登録や生徒個人のアドレスを要求してくる企業があり、苦慮した。
- ・書類選考のみで合否を決定した会社があった。
- ・平日に行われる内定式はいかがなものか。

3 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援（就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習）の活用状況、効果、課題及び要望等について（新型コロナウイルス感染症による中止の影響も含む）

(1) 職業安定機関によるもの

- ・県単位のガイダンスや名刺交換会は中止または制限付（人数、承諾書など）開催や市主催のものもあった。
- ・対面式行事の代替策として、紹介冊子・教材・Web説明会などの取組みが有効活用された。
- ・厚生労働省委託事業の講習会（マナー・面接など）実施。効果があった。
- ・期日や形態など変更が繰り返され混乱もあった。未内定者の支援がなされるか不安がある。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・中止や延期に伴い日程が合わず参加を控えたところが多く、あまり活用できなかった。
- ・出張できない状況でも、オンライン対応してもらったので助かった。
- ・県外企業の情報収集に有効であったとの意見もあった。
- ・説明会で、学校を通さずに応募前職場見学の参加を希望した生徒がいた。対応を検討中である。

4 新型コロナウイルス感染症に伴う状況について

- (1) **令和2年3月新規高卒就職者の内定取消・採用時期延期・労働条件の変更など**
- ・内定の取消しはないが研修の延期やリモート研修、自宅待機に伴う給与減額や遅配があった。
 - ・採用時期延期に見舞われる卒業生がいた（電子機器製造、飲食サービス業）。
 - ・内定辞退への圧力があり入社できなかった者もいた。縁故就職者の採用取り消しがあった。
- (2) **学校が臨時休業となった就職準備への影響（指導上影響、計画変更の影響、求人開拓など事業所との関係の影響など）**
- ・企業と学校間の訪問ができず、情報交換や定着指導が困難だった。日程見直しも度重なった。
 - ・募集の計画も遅れがちで連絡が遅くなった。教員と企業の情報共有も不足しがちであった。
 - ・予定していたガイダンスや講演会が殆どできず、生徒の進路意識を高めるのに苦勞した。
 - ・夏休み短縮で面接・SPIの課外指導や応募書類作成に充てられる時間が少なかった。
- (3) **求人の傾向（求人数などに変化のあった業種、職種等について）**
- ・業種としてはサービス業（特にホテル観光業・飲食業・調理・接客販売）、製造業（自動車・航空関係・製造（部品調達を海外に依存している企業）、鉄道、理美容業が減少した。
 - ・職種としては観光関係の業種の影響が、調理、接客、事務が減少した。
 - ・盲学校高等部専攻科において、訪問マッサージなどは減少傾向である。
- (4) **他の地域との自粛など状況が異なることからの影響**
- ・感染流行地域への応募前見学の自粛・制限またはオンライン見学などで情報が不十分である。
 - ・県外からの企業による求人・学校訪問ともに減少し、訪問されてもやむなく断る場合もあった。
 - ・県内や通勤圏内を志願する生徒が多かったように感じる。
- (5) **採用試験・内定開始が1ヵ月遅れになった状況など**
- ・1ヶ月遅れの影響で最初の試験に失敗した場合は進学へ変更も含めて次が非常に厳しくなる。
 - ・就職試験開始日変更の通知が6月（年度中）で混乱があった。
 - ・期間の長期化に伴い授業日の職場見学が多くなった。間延びして緊張感に欠ける生徒もいた。
 - ・就職指導の時期が進学者対応や学校行事と重なり、混乱や教員の負担増につながった。
 - ・夏季休業の短縮したため、書類作成作業を授業と並行してすることになった。
 - ・求人票が例年通り8月上旬にはほぼ揃ったので、余裕をもってでき、休校の遅れも取り戻せた。
 - ・台風の時期と重なる心配がないのはよかった。
 - ・自動車学校入校の遅れ。入社までに自動車免許取得が必須の場合、時間に余裕がない。
- (6) **就職試験の状況（Webを利用した面接試験など）**
- ・少数だが県外の企業がWeb面接や適性検査・CBT方式の学力試験が行われた。通信環境の確認等業務が増えた。
 - ・対面面接をお願いしている県ではWeb面接の報告例はないが、企業または指定場所に赴きWeb上の適性検査、面接などの報告は上がってきている。
 - ・応募前企業見学をWebで実施した企業は面接もWebで実施したので抵抗なく対応できた。
 - ・校内で行う場合、同一日に受験が重なった際の場所の確保、通信トラブル・休日実施の場合、教員の休日出勤など課題が残る。生徒個人のスマートフォンなしでは対応できないのではないのか。
 - ・県立学校のネットワークの設置や全寮制の高校では対応に向けて課題が残ると感じた。
 - ・リモートではなく本社から各県に赴いて対面形式の試験をしてくれた企業もあった。
- (7) **その他**
- ・離島地域では航空便の減便と「GoToトラベル」が相まって、飛行機確保が困難であった。
 - ・次年度の採用計画、募集減が気になる。
- 5 **職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について**
- (1) **就職支援相談員（ナビゲーター（旧ジョブサポーター））等の就職支援**
- ・コロナ禍で制限もあったが多くの県・学校で支援をさせていただいて非常に助かっている。
 - ・就職支援員には面接指導・求人開拓で大いに助かっているため今後も配置拡大を願う。
- (2) **生徒、保護者への講義・講話、企業説明等（ハローワークが実施する就職ガイダンス事業）**
- ・学校の状況に応じた様々な支援をさせていただいている。
 - ・コロナ禍で制限もあるが多くの県や学校で活用しているが定時制夜間部での実施が課題である。
 - ・1、2年の就職ガイダンスや3年生の進路決定後のセミナーなどを実施していただいている。
- (3) **その他・要望・意見**
- ・特になし。
- 6 **厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）**
- ・障がい者求人の開拓や学校内での支援の強化をしてほしい。
 - ・手取額の欄がなくなった。補足の欄に記載している県もあるが全都道府県で統一してほしい。
 - ・1人1社制の限界にあるように感じる。授業の確保や同一生徒が複数の内定を得るなど、問題は簡単ではない。新たな仕組み作りへ動き出しても良いのではないのかと考える。
 - ・ジョブサポーターが校内に入れられないなどコロナ対応が厳しすぎる。柔軟に対応してほしい。

- ・公務員試験は9月第1週からの実施、面接は対面の徹底をお願いしたい。
 - ・今年度のように様式の変更とコロナ禍が重なる場合は変更を延期するなどの配慮を望む。
- 7 ユースエール認定制度について（認定制度の認知度、地域での浸透具合）**
- ・制度の認知度や重要視は低く、浸透しているのは一部のみ。求人票記載など工夫が必要である。
- 8 「高卒求人情報WEBサービス」について**
- (1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点（パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて）**
- ・全体的に活用する頻度や学校数は増加しているようだが学校による温度差も見受けられる。
 - ・アップロードされていても問い合わせをしたら指定校の関係で受験できない企業が多い。
 - ・非公開求人も閲覧はさせてほしい。そのことで、新規開拓に繋がりたいと考える。
 - ・募集を終了した時は速やかに連絡し、削除するようにしてほしい。
- (2) 新たに希望する追加機能、新求人票についての意見・要望など**
- ・旧形式のように手取額や募集職種内の人数（過去3年の募集、応募、採用、離職）、寮費などが分かるようにしてほしい。
 - ・新求人票に指定校に係る求人連絡、推薦数欄を復活してほしい。
 - ・検索機能を強化し「障がい者求人」などで検索できるように改善してほしい。
 - ・PDFではなく編集できるデータ（例えば表計算ソフトによる一覧表）としていただけないか。
- 9 「キャリアパスポート」の取り組み状況などについて**
- ・クラウドサービスのポートフォリオ機能等で進路指導および調査書・推薦書に役立てている学校があるものの、県・学校による温度差が否めない。担任の負担が多いという意見が出ている。
 - ・記入は教務が主体で時間数の記入時間を設けている。ポートフォリオ作成は進路が担当している。
 - ・統一されていない項目が多く、学校によって家庭負担額が違ってくるのではないかと感じている。
- 10 ハローワークとの連携について（好事例、期待、意見、要望）※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。**
- ・適宜な情報提供や迅速な問題対応や根気強いアドバイスをしていただき、助かっている。
 - ・コロナ禍の状況でも「求人の傾向」や「今後の見通し」に関してできる限り情報を入れてほしい。
 - ・講座についてはコロナウイルス対策を講じた上で実施することができた。大変好評であった。
 - ・通信制の場合、複数地域のハローワークを利用できるので、助かっている。
 - ・障がい者雇用に関する知識は知っておくとよいので、必要な知識として研修などの周知を望む。
 - ・内定式を実施する場合は授業に支障なきよう企業への指導をお願いしたい。
 - ・就職内定状況の月次報告で「求人番号」を記入すれば他は省略となるよう検討してもらいたい。
- 11 関係機関（①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等）に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。**
- ・企業や関係機関同士の情報共有と資料の電子化で調査など効率化を望む。(①②③④⑤⑥)
 - ・就職状況（ハローワーク）と就職者数（教育委員会）の分類を統一してほしい。(①②⑤)
 - ・来年度は、就職応募に時期、就職試験解禁日を従来の日程に戻してほしい。(①②)
 - ・就職に不合格しても職業訓練校等へ挑戦可能になるよう日程調整を望む。(①②)
 - ・重要な決定を年度途中で発表するのは現場の混乱を招くのでやめてほしい。(①②)
 - ・Webを利用した説明会や試験に必要な機材の予算化をしてほしい。(①②)
 - ・Web面接を行う場合は、応募書類提出前に連絡するように指導してほしい。(①)
 - ・応募前見学の際の事故などに係る保険については、早期創設をお願いしたい。(①③)
 - ・厚生労働省・県委託事業の継続を望む。(①)
 - ・進学が多種多様になっているので今年度のように就職との時期が重ならないよう配慮を望む。(⑥)
 - ・通信制は、全日制から転入学して来る生徒が増加傾向にあることへの配慮を望む。(①②③)
 - ・1、2年生への新型コロナの影響を最小限度にとどめる策を速やかに講じていただきたい。(①)
 - ・障がい者雇用と労働賃金について県間の格差を無くしてほしい。(①)
 - ・「発達障がい」の生徒への進路指導に対する理解と支援を望む。(①②⑤)
 - ・一人一社制を当面は堅持してほしい。(⑥)